



英國財政史

トーマス・ダブルデー氏著

自第三章  
至第五章



114  
A1436  
2

英國財政史第三章

國債ノ性質

抑モ余ハ初テ今ヨリ三十年ノ昔ニ在テ既ニ自カラ財理ヲ考究  
シタリシ再耒我カ持論タル所謂ル國債ト稱スルモノ、正理ニ  
背キ人代ノ福祉ヲ残害スルト云フ所見ヲ確守スルヲ三十年猶  
六一日ノ如ク敢テ一回ヲモ撓屈セシト非サルナリ夫レ三十年  
日月ハ短カシト謂フヤカラス而シテ共三十年ノ間ニ自カラ  
學士ノ名ヲ以テ稱スル人ノ内ニ於テモ猶ホ且ツ其可シラ余ト  
同シクスルモノ、出タルハ僅ニ數人ニ止マレリ嗚呼我カ説ヲ  
和スルモノハ其レ此ノ如ク寥々タリト謂フヘシ然レモ今ノ之  
レカ為メニ少シモ我カ持論ヲ動カサス又夕動カセシトモ非ザル  
ナリ余事物ノ理ヲ考究スルノ初メニ於テ幸ニ理財學ノ真理ヲ  
發明スルヲ得タルハ其榮少ナカラス余ハ修學ノ初メヨリ以テ

大正十一年四月  
大隈侯爵郵寄贈

一國ノ經濟及ヒ道德ニ関涉スル許多ノ合複ニタル論題ヲ考究  
スルニハ必ラス常ニ其源理ニ遡テ以テ其蘊奥ヲ極ムルノ緊要  
ナルヲ知レリ故ニ今マ國債ノ性質ヲ論スルニ當テ先ツ社會ノ  
起初ト其社會權利ノ因テ起ル所ノ源由及ヒ其社會ヲ組成スル  
各個人ノ尽スヘキ義務ノ起本ニ遡テ論味スル所アラントス是  
無智無學ノ人ハ論題ノ名ノ為メニ欺カレ此ノ本條ノ國債ヲ  
以テ唯タ尋常ノ貸借ニ外ナラザルベシト妄信スルモノナキヲ  
依テ難ケレハナリ

モレ人類ヲレハ必ラス社會アリ蓋シ社會ヲ組ムニアラサレハ  
人類ヲ抱括生存スル能ハサルカ故ナリ既ニ然ル中ハ則チ人々  
ノ協力シテ此ノ社會ヲ維持スルハ復タ當然ノ理ト云ハサルヲ  
得ス是則チ法律家ノ天然法ヲ講スルノ基礎トスル所ノモノナ  
リ天然法學者ノ巨擘ト稱セラレタルパッフェンベルグ氏云ク天然

法ハ唯タ人間社會ヲ維持センカ為メノ道理ニ由リテ確定シタ  
ルモノニ外ナラスト（パッフェンベルグ氏ノ誘導篇ノ九十九項ヲ見  
ヨ）又タ云ク既ニ然ル中ハ社會ハ各個人ノ同心協力シテ以テ之レ  
ヲ保護維持セサルヘカテサルモノナリト（パッフェンベルグ氏第一  
表第三章九項ヲ見ヨ）又タ云ク夫レ一目的ヲ達セント欲スル人  
ハ必ラス皆チ其目的ヲ達スルニ缺クベカラサル器械ヲ備ヘカ  
ルベカラサルハ必然ノ理ナルカ故ニ今マ社會ヲ維持セント欲  
スレハ之レヲ維持スルニ必要ノ諸具ヲ備フルハ亦タ天然法ノ  
定ムル所ナリト

社會ヲ維持スルハ天然法ノ第一義タルカ故ニ各個人ノ義務ハ  
社會ニ對スルノ義務ヲ以テ第一トスルノ天理ナルハ（パッフェンベル  
グ氏ノミナラス）ク（ロチアス）「ヴァアタル」モ「ンテスキュロ」ノ「マ  
レ」ノ諸法學士及ヒ人間社會ノ起初ト天法ヲ講スル法學者ノ

尽ク同意スル所ニシテ皆ナ其社會ヲ維持スルヲ以テ第一義ト  
スレハ之レヲ組成スル各人ノ義務ハ社會ニ對スルヲ以テ復タ  
第一義ト為サ、ルヲ得ス、何トナレハ則チ社會ハ各個人ヨリモ  
緊要ナルカ故ニ從テ社會ノ權利ハ各個人ノ權利ヨリモ尊カ  
ラサルヲ得ス、<sup>1</sup>パツフェンドルフ氏云ク(第二卷第十八章第四節ヲ見  
ヨ)良民ノ社會ニ對スル義務ヲ約言スレハ即チ良民クモハ  
必ラス國ノ安寧無事ヲ保持スルヲ先ンジ、其國ノ安寧無事ヲ維  
持スルカ為メニハ何時タリモ甘シテ其生命財産ヲ犧牲ニシ以  
テ其務ヲ尽シ決シテ他事ニ志ヲ遷スベカラスト云フヘキナリ  
ト夫レ一般ノ道理ハ各個ノ各理ヲ含有スルノ論理ニ據テ之レ  
ヲ推ス、<sup>2</sup>ハ各個人ノ其家産ニ從テ平時ト戦亂トヲ問ハス其  
社會ノ用費ヲ供スルハ當然ノ理ナリ、<sup>3</sup>パツフェンドルフ氏又ク云ク  
平時ニハ其國費ヲ支辨スルニ謹慎ナル主治者ハ公平ナル收稅

法ニ據テ收稅スベシト(第二卷第七章第七節ヲ見ヨ)其次節ニ於  
テ又ク云ク萬民ノ安危利害ニ関スル國家非常ノ時ニ當テ其安  
寧ヲ維持スルカ為メニハ各個人ノ財産ヲ取テ之レヲ公用ニ供  
スルモ可ナリ且ツ其公用ニ供スル財産ノ價直タルヤ大ニ其平  
時帝ニ供給スル稅額ノ高ニ超過スルモ之レヲ顧ミルニ及ハサ  
ズ、<sup>4</sup>ト(第二卷第十五章第四節ヲ見ヨ)又ク云ク其超過高タル  
ヤ其人コレヲ供セサルハ社會若クハ有志者ノ嚮金ヲ以テ支  
辨スルヲ得ベシト雖モ國家非常ノ時ニ當テ其生命財產ヲ捧テ  
國ニ報スルハ各個人ノ社會ニ對スル義務ニシテ之レヲ尽スモ  
ノハ天然法ニ背カサルモノト稱スベシト抑モ<sup>5</sup>パツフェンドルフ氏  
ノ此ノ天然法ノ格言タルヤ有名ナル法學者ノ尽ク同意賛成ス  
ル所トナリ殊ニグロチス氏ノ同意スル所ナリ即チ同氏ノ著書  
ナル<sup>6</sup>グーシエールベリ、<sup>7</sup>エパリスニ云ク國家非常ノ時ニ當テ

各個人其所有物ヲ共有物ノ如ク公用ニ使用スルハ天然法ニ至  
當トスル所ナリト(第二卷第二章第六節ヲ見ヨ)以上開陳シタル  
モノハ則チ各個人ノ社會ニ對スル義務殊ニ公費ヲ支辨スル義  
務ニ関スル天然法ノ格言ニシテ自然人間ノ性情ヨリ發起  
ルモノタルカ故ニ古今ヲ問ハス貴賤ヲ論セス人類一般是認ス  
ル所ノモノナリ  
上文ニ引證シタル如ク社會ノ安寧ヲ維持スルニ必要ナル金穀  
ヲ供スルハ各個人ノ社會ニ對スル義務即チ天然法ニ基クカ故  
ニ世界各國古今ヲ問ハス政府果シテ此ノ義ヲ固執シ終ニ之レ  
ヲ妄用スルニ至レリ余輩古今ノ歴史ヲ閱スルニ往々臨時借入  
レ臨時負債ノ言語アルヲ見ル此レ等ノ債タルヤ其名ハ公債ナ  
リト云フト雖凡其實ハ私債ナリ例之ハ國君金穀ヲ富豪ノ人民  
ニ借り之レヲ以テ已レカ權勢ヲ盛大ニシ武威ヲ増進スルノ目

的ニ使用シタルハ其例少ナカラス然リト雖凡此債タルヤ各個  
人民ノ貸借ト均シク必ラス王領地ヲ以テ其抵當トナセリ夫ノ  
日耳曼帝「チャールズ」五世及ヒ其先帝「マキシミリアンカ」有名ナル  
「フシング」スノ「フリーゲル」族(此ノ族ハ日耳曼ノ豪族ニシテ彼ノ  
比利時一府ナル「アントウエルブ」ニ於テ麻布織業ヲ起シ歐洲物  
價大騰貴ノ時ニ當テ巨萬ノ富ヲ致シタルモノナリ)ヨリ巨大ノ  
金額ヲ借リタルハ即チ此ノ種ノ債ニシテ王領地ヲ以テ抵當ト  
セレモノナリ英國ニ於テモ此ノ如キ種類ノ債アリ即チ貧窮ニ  
シテ奢侈ヲ好ムノ君主ハ其王領地ノミナラス王服ノ粧飾ヲ抵  
當トシテ債ヲ募リシヲ往々其例アリ又タ右ノ慣習ニ從テ久年  
議院ガ數々没官地及ヒ既ニ議定シタル末歲ノ收稅ヲ抵當トシ  
テ巨額ノ債ヲ倫敦府民ニ募集シタルコトアリ是レ猶ホ私債ニ  
シテ未タ以テ公債ト稱シ難シ又タ各個人政府ノ為メニ格別ノ

勞役ヲナシタルニ政府其勞役ニ酬ユル為ニ拂渡スノ資金不足  
セシヨリ所謂ル拂殘ヲ生シ之レカ為メ右各個人ハ政府ノ債主  
トナリテ其拂殘金ノ代リニ政府會計局証券ヲ請取ルニ至レリ  
然レ氏猶ホ是レ各個人ト政府トノ間ノ私事ノ貸借ニシテ未ク  
之レヲ公債ト云フ得ス何トナレハ議院人民共ニ此ノ債ニ関涉  
スルコトヲ得サレハナリ且ツ議院ノ如キハ舊債ノ拂殘高ヲ以テ  
其責任アル議場ノ問題トナスハ其理ナキニ似タリトシテ數々  
此ノ關係ヲ詳セシマアリ

**註** 舊佛國債ノ如キハ此ノ種類ノ債ニシテ之レヲ私債ト稱ス  
トシ蓋シ此ノ債タルヤ大半ハ佛王路易十四世ノ其百戰ノ  
軍費ノ為メニ募集シタルモノナリ路易平生云ヘルコトアリ  
國ハ即チ余ナリト是レニ由テ之レヲ觀ルルハ當時人民ノ  
國ニ對スル義務ハ唯タ路易大王課スル所ノ稅ヲ惟レ收ム

ルニ外ナラサリシナリ

國家ノ安危ニ係ル非常ノ時ニ當テ各個人民ノ利息ヲ取テ金錢  
ヲ其國ニ貸附ルハ恰モ父子共ニ飢餓スルノ中ニ當テ其子タル  
モノ利息ヲ取テ其父ニ遺錢ヲ貸スト同様ニシテ其背理タル  
事ヲ人々其腦中ニ信セシカ故ニ近代ニ至ル迄ハ取テ之レヲ行  
ハサリシナリ然ルニ却テ文明ト稱スル輓近ノ時代ニ至テ此ノ  
背理ノ政策ヲ企圖シ實際ノ經驗ヲ歷テ初テ其背理邪惡ノ政策  
タルヲ悟リシハ之レヲ奇怪ト云ハサルヲ得ス殊ニ此ノ背理政  
策ノ初テ其根ヲ有名ナル法律家グロチアス氏(和蘭人ナリ)ノ同  
國人ノ頭殼ニ取リシト云フハ真ニ驚クニ堪ヘタリト雖モ實際  
ノ事實ニ於テ其然ルヤ疑ヲ容レサルナリ抑モ此ノ毒惡ナル政  
策ノ初テ顯ハレタルハ一千七百年代ノ中頃ニシテ一和蘭人ノ  
奸譎不潔ノ腦中ヨリ産出シ終ニ和蘭國內ニ於テ初テ國債ト稱

スルモノヲ現出セリ蓋シ世上一般未タ嘗テ此ノ如キ奇怪ノ政  
策ヲ知ラサル所ナリ古詩ニ「ルナ希臘王國ノ南部ノ半嶋ナル  
モレア即チ「ペロポネサス」ニ於ケル地名」ハ澤中ニ水蛇ヲ生セリ  
ト云フテ世ノ民害ヲ為スモノヲ諷誅セシカ今ヤ一千七百年代  
ニ於テソイテ「日耳曼洋ノ一灣」ニシテ和蘭ニ屬ス（海灣ノ澤中  
ニハ尚ホ此レヨリ甚シキ民害物ヲ生殖セリ蓋シ其惡樹ヲ生シ  
タル所以ノモノハ他ナシ到底其沼池ノ惡樹ヲ生スヘキ地質ナ  
ルカ故ナリ夫レ當時ノ和蘭人タルヤ其内一二ノ人傑ナキニ非  
ズト雖モ概シテ見ルキハ貪慾卑賤淺慮ノ人民ト云ハサルヲ得  
ス然リト雖モ又夕一方ヨリ觀察スルキハ其國甚タ小弱ナルニ  
數々外寇ノ侵入ヲ受ルヲ以テ非常ノ勤勞ヲ為スニ非サレハ其  
生ヲ保ツ能ハサルヤ明ラカナリ然レハ則チ諫人氏ヲシテ國債  
ナル此ノ背理ノ政策ニ陷ラシメタルハ其國勢ノ然ラシムル所

ト云フモ其レ或ハ可ナラン乎余ハ今此ノ處ニ於テ諫政策ヲ細  
々陳述スルヲ以テ適當ト信スルナリ  
夫レ和蘭ノ國タルヤ天峻ノ以テ外寇ヲ防クヘキモノナク而シ  
テ四隣強國ノ間ニ孤立スルカ故ニ其防衛線ヲ張ルノ費用尠シ  
トセス且ツ其國事ノ為メ宗教ノ為メ數々其國力ニ應セサルノ  
戰爭ヲ為セシカ故ニ其費用ヲ支辨スルカ為メニ人民ハ非常ノ  
稅ヲ收メサルヲ得ス因テ其成果ハ則チ貴重ナル自由ヲ擧テ尽  
ク之レヲ諫大黒天（福神）ノ神前ニ犧牲ニスルニ至レリ  
和蘭ハ西班牙及ヒアルバ蘇格蘭ノ一邑侯ノ羈絆ヲ脱スルノ後  
テ宗教査察所ヲ滅却シテ商人會所ヲ設立シタルヨリ頻リニ宗  
教ノ戰爭ニ関ハリ其國力ヲ尽シテ其奉スル所ノ宗教ヲ撲滅セ  
シト企ツルモノニ抵抗シ為メニ巨大ノ財貨ヲ費シ終ニ金錢ヲ  
貸典スル人ニハ其自由權利等ヲ犧牲ニスルヲ顧ミサルニ至レ

り而シテ金錢ヲ募集センカ為メニ名ヲ共和政黨ニ藉テ富ノ王  
按スルニ第一等富者ヲ云フヨリモ巨大ノ財ヲ集メリ其豪富ノ  
府民ヲ誘フテ其貨幣ヲ出サシメ為ニ終ニ一般人民ヲシテ其權  
利ヲ失ナハシムルニ至レリ其言ニ云ク公等宜シク其金錢ヲ出  
シテ公等ノ國ニ貸與セハ則チ其人民ハ皆ナ公等ノ奴隸タルヘ  
シト又夕貨幣ヲ徵集センカ為メ其債主ニ向テ誓テ云ク自餘ノ  
他ノ財貨ニ於テ避クベカラザルノ先峻損害ナリト雖モ其貸與  
金ニ付テハ之レヲ保証スルノ約束ヲ定ムト即チ其約束ノ條目  
ハ該貸與金ハ變亂災害ヲ受ケザルヘシ又夕兵亂改革ノ為メニ  
減額スベカラス損失スヘカラス又夕國家非常ノ時變ニ遭遇ス  
ルトモ決シテ之レヲ動カスコト勿ルヘシ他物ハ尽ク國用ニ供  
セザルベカラザルノ大變ニ遭フモ之レヲ濫用セザルヘシ又夕  
該貸與金ハ之レヲ償還スル迄ハ設令モ其償還期限ノ延テ人間

世界ノ尽ル日ニ至ルモ借主自己ハ勿論其子々孫々タリモ必ラ  
ス其利息ヲ拂フベシ又夕其約束ノ誓言ニ借主其子孫ヲ餓死セ  
シムルモ其利息ヲ拂入ルヘシ又夕其元金ノ保証ニハ其土地ノ  
ミナラス其土地ニ生活スル人民ヲ以テ永遠無窮其抵當トナシ  
置クヘシ而シテ金銀借入レヲ以テ目下最大ノ急務トスルヲ以  
テ設令モ獨立國民タルノ生存ヲ失フモ其借入金ハ免喚ニ置カ  
ザルベシ國ハ光榮ヲ失フモ國ノ信用ハ保ツベシト是レ突然初  
メテ聞クノ耳ニハ虚誕ノ如シト雖モ不幸ニシテ虚誕ニアラス  
真ニ當時國債ヲ募集シタル情況ノ事實ナルハ慨嘆ニ堪ヘザル  
ナリ夫レ此ノ暗愚背理ノ政策タルヤ奸猾零賣ヲ以テ終ニ人民  
タルノ生存ヲ得ルモノ、中ニ發起セシモノナリ、即チ是レ和蘭  
猶太教徒ノ腦中ニ生シテ乾酪鹽魚鹽漬青魚牛酪香料類陶器貨  
物屬濟ノ証書出港免狀載貸目錄及ヒ「ワ」テルダム商人會所ノ符



節等ノ内ニ醸成セリ、然リト雖、此ノ背理ノ政策タルヤ統治ス  
ル君主ノ放蕩奢侈ナルカ、或ハ宰相ノ奸邪ナル乎、或ハ議院ノ時  
勢ニ左右セラレ、真理ヲ建議スルノ卓識氣力ナキ乎、國ハ必ラ  
ス右和蘭ノ轍ヲ踐ミタルカ、故ニ數年ヲ經過スル内ニ、談惡毒ノ  
政策ハ英國ニ蔓延シタルノミナラス、稍ヤ債金ノ抵當トナスヲ  
得ヘキ信用ヲ有スル國乎、若クハ臣民ノ暗愚ニシテ欺クヲ得ベ  
キノ國ハ、皆ナ此ノ惡毒ニ感染セリ、然リト雖、余輩ノ今マ此ノ  
處ニ論陳スヘキ主義ハ、國債ノ歴史ニアラス、テ獨リ其理ノ如  
何ヲノミ論スルニアルカ、故ニ今マ國債ノ利害邪正ヲ開陳スヘ  
シ  
余輩談政策ヲ觀ルニ、其白地ニ天然法及ヒ國民ノ重ナル義務ヲ  
破壊スルノ事ハ、措テ論セサルモ、尚ホ法律上ニ德義上ニ其許多  
ノ背理邪惡ヲ包藏スル政策タルヲ知ルナリ

抑モ國債ノ背理政策タル第一義ハ、其借入レ金ヲ沈没シ利潤ヲ  
得ルノ義ナク、徒ニ利息ノミヲ拂フ事則チ是レナリ、夫レ人々ノ  
數々已ムヲ得サルノ情勢ヨリ、金錢ヲ借り之レヲ有益ノ事ニ用  
ヒスレテ、徒ニ沈没スルカ、如キハ會社等ノ數々為ス所ニシテ、世  
間、其例少カク、サレ、其撰ヒ用ヒタル法方ニ至ラハ、必ラス其身  
ニ属シテ終身有期年賦ヲ以テ元金ヲ辨償スルノ方策ナリ、此ノ  
方策ハ、理ニ適ヒ、善良有益ノ方法タルヤ、明ラカナリ、而シテ其債  
主、年々辨償スル所ノ利息ト稱スルモノ、金額ハ合法利息曰  
リ多キヤ、疑ヲ容レサレ、此レヲ利息ト呼ブハ、甚ク穩當ナラサ  
ルナリ、其實ハ其利息ト稱スル金額ノ大半ハ借主ヨリ貸主ニ元  
金ノ一部ヲ償還スルノ理ナリ、而シテ其貸主ハ若シ尚ホ長命ヲ  
保ツニ於テハ、此ノ始計ニ由テ其元利ノ金額ヲ以テ其費用ニ供  
スルヲ得ベシ、然リト雖、此ノ債タル尚ホ全ク定限及結局アル

モノニシテ借主利スルコトナシト雖モ亦ク損失スル所ナキナリ  
此レニ及シテ國ニ戰爭アリテヨリ募集シタル國債ノ如キハ其  
元金ヲ速ニ辨償スル能ハサルカ故ニ國民ハ無期年賦ヲ以テ其  
屢ニ募集シタル金額ヲ辨償スト雖モ到底少シモ其元金ヲ減少  
スルコトナシ今ヨリ二百年前英國政府ノ募集シタル公債ハ既ニ  
五度ニ其利息ヲ拂ヘリト雖モ少シモ其元金ノ額ヲ減スルコトナ  
シ是レ愚モ亦甚シト云ハサルヲ得ス余輩熟ラ考フルニ該利息  
ノ内百分ノ一ヲ以テ其元金ノ辨償ニ引當テシナラハ必ラス今  
日ハ其金額ヲ辨償シ尽シタルベシ然ルモハ必ラス些少ヲ檢シ  
テ巨大ヲ免カレタルベシ

其背理第二義ハ則チ夫レ各種ノ家産ニ在ラハ時日ヲ制限シ  
ルヤ與カリテ最モ力アルモノナルニ此ノ國債ニ在ラハ法律上時  
日ノ制限ヲ受ケサルト是レナリ例之云在昔第一世期ノ中頃

カ女王<sup>ボアチ</sup>ガ<sup>サ</sup>羅馬兵ト戦シカ為メ其軍備トシテ國債ヲ募  
集セシト假定セヨ當時ヨリ既ニ一千七百年ノ冬ニ至リテ經過ス  
ル其債主所持ノ証書ト其返金要請トハ果シテ偽造虚言ニ非  
サルヲ保シ難シ又其金額ハ其一千七百年間ニ發起シタル世  
變滄桑ノ中ニ能ク保持セシヤ否ヤヲ知ル能ハス而ルニ千載ノ  
今日ニ於テ余輩ハ法律上其利息ヲ支辨セサルヲ得サルベシ夫  
中國債ハ則チ既ニ此ノ如シ然ルニ各個人ニ至リテ然ニ二十年間  
他ノ田地ヲ借有シ其後チ他ヨリ要請スルコトナケレハ之ヲ  
返却スルニ及ハス又夕單約債ニシテ六年間其償還ヲ要スルモ  
ノナキ片ハ之レヲ債ト云ハストハ賢ニ奇モ亦甚クシカ  
スヤ

其背理第三義ハ則チ國債ヲ募集スルニ於テ何レモ其前募集ハ  
必ラス後募集ノ素因トナリ其第一債ヲ募集スル片ハ其金額ニ

應レテ復タ第二債ヲ募集セサルマカラガレ情勢ニ至リ次第ニ  
 其勢ノ前進シテ退カント欲スルモ得ヘカラサルニ至ルモノ即  
 チ是ナリ、此ノ理タルヤ前債ノ利息ハ物品ノ税ヲ以テ償還スル  
 モノナルカ故ニ其利息ノ金額ノ多少ニ從テ物價ヲ騰貴スヘシ  
 其物品ノ騰貴シタル價直ノ害ハ則テ費用ニ支出スル後券債ノ  
 蒙ムルモノタルヲ知ラハ其背理タルヤ固ヨリ炳焉トシテ其レ  
 明ナリ、是故ニ國債ヲ以テ支辨スル戦争ノ累年連続スルニ當  
 テハ乙年ノ費額ハ甲年ノ費額ニ超過シ丙年ノ費額ハ乙年ノ費  
 額ニ超過シ一年一年ヨリ遞加増額スベシ、其故何トナレバ國債  
 ノ利息タルヤ其増積スルニ從テ兵隊及ヒ其使役ニ從テ糧食運  
 輸其他ノ事務ヲ勤ムル人々ノ使用スル所ノ一切ノ物品ニ課税  
 スルコト益々多ク、其課税多クレバ從テ物價ヲ騰貴スルカ故ニ  
 又タ其割合ヲ以テ兵士ノ俸給及ヒ兵士ニ供スル物品ノ費用大

増加セサルヲ得ヌ例之ヲ夫ノ紀元一千七百九十三年ニ起テ  
 一千八百十五年(中間二十二年)ニ止リタル英佛戦争ノ如キ重ニ  
 國債ヲ以テ其費用ヲ支辨シタルカ故ニ年々進テ漸次ニ其費用  
 ノ増加レタルヲ見ル、該戦争ノ終末七年間兵士ノ費用シタル金  
 額ノ計算表ヲ觀ル所ハ則チ十分ニ其然ルハキヲ証スルニ足ル、  
 下表ヲ覽ルモノハ各年ノ費額ハ年々擧テ其年ノ下ニ列載スル  
 所ルヲ注意スヘシ、蓋シ會計年度ノ計算ハ一月五日ニ終ルヲ以  
 テテアリ、計入セバ固チ其後自終ニ達スルモノハ其後其後其後其後

林年紀	兵隊ノ費用	封度
一千八百十年	同	一八、四、三、〇、九、四
一千八百十一年	同	一八、五、三、六、三、〇、〇
一千八百十二年	同	二、三、八、六、九、三、五、九
一千八百十三年	同	二、四、九、八、七、三、六、二

一千八百十四年	同	二九、四六、九五、二〇
一千八百十五年	同	三三、七九、五、五三、六
一千八百十六年	同	三四、二〇、七、三八、四

是レ則チ佛蘭西ト戦端ヲ開キタル二十二年ノ終局トシテ、  
 於テ増進セシ兵士ノ費額ナリ、是レニ由テ之レヲ觀ルルハ軍用  
 ノ為メ借入タル國債ハ自カラ動進スルノカアリ其動進タルヤ  
 其進ムニ從テ益々甚シク益々困却ヲ増スモノナルヤ確トシテ  
 易フベカラサルナリ、  
 右ニ陳述シタルカ如キ増進ノ稍ヤ連續スルハ終ニ必ラス之  
 レヲ償還スル能ハサルニ至ルヤ智者ヲ待テ後ニ知ラサルナリ、  
 夫レ國家大變ノ時ニ當テ其國難ヲ救フカ為メ必要ノ金錢ヲ出  
 サ、ル人ニシテ其大變ノ既ニ過キ去リ國家平和ノ時ニ至リテ  
 豈ニ之レヲ出スヲ肯セシヤ復タ取テ之レヲ望ムハ可シヤ、是レ

甚タ明ラカナル道理ニシテ人性ノ之ヲ天賦ニ授スルニ非サレ  
 ハ必ラス然ラサルヲ得サルナリ、然リト雖モ尚ホ此レヨリ甚シ  
 キ背理アリ、若シ小額ノ債ヲモ負ハサル國ニシテ危峻ニ遭遇シ  
 其自國ノ資本ヲ以テ之レヲ防禦スル能ハス為ニ一度ヒ債ヲ負  
 フタルヲ又シ再々前ト同様ノ危難ニ遭遇セハ如何シテ自カラ  
 維持スベキ乎是レ益々尚ホ多クノ債ヲ募リテ以テ維持スルヨ  
 リ外ニ計策ハアラサルベシ、如何ニモ國債ヲ募集シテ一時ハ猶  
 ホ國ヲ維持スベシト雖モ終ニ之レカ為ニ大謬ノ基ヲ開クニ至  
 ルナリ即チ最大ノ富國ト雖モ債ヲ募ルニハ自ラ定限アリ而ル  
 ニ其既ニ負債アル國ニシテ益々募債スルカ如キハ可キコアラ  
 ハ到底敵國ノ為メニ奪取セラレ、乎但シハ債主ノ奴隷トナラ  
 サルヲ得ス或ハ奪略奴隸西ナカラ免カレサルノ時至ルヘキヤ  
 明ラカナリ是レ則チ右ノ如キ募債ノ愚果ナリ、然リト雖モ是レ

猶ホ害ノ小ナルモノニシテ他ニ復タ害ノ之レヨリ大ナルモノ  
アリ、是レ余輩ノ次節ニ論陳スル所ノモノナリ、  
一國若シ巨大ノ債ヲ募集スルハ必ラス其土地及ヒ人民ヲ以  
テ其債主ニ抵當ト為サ、ルヲ得ス何トナレハ則チ所謂國債主  
ニ其債ノ利息ヲ拂フニハ人民ノ其土地ニ加ヘタル勤勞ノ成果  
ニ據ラサレハ能ハサルカ故ナリ、夫レ斯ノ如抵當ヲ為スハ天然  
法ニ背キ並ニ公理ニ戾レリ是レ甚タ觀易キ達理ノ人ニ非サル  
モ必ラス其果シテ背理タルヲ知ルハキナリ、其理義ヲ今マ一層  
平易ニト解セント欲セバ夫レ物ヲ抵當ニスヘキ權ヲ有スルモ  
ノハ、亦タ之レヲ賣却スルノ權ヲ有スト云フコトヲ反思スレハ  
自カラ明了ナルベシ、何トナレハ則チ抵當權ハ賣却權ヲ含ムト  
云フハ法律ノ格語ナ、ルカ故ナリ、然リト雖モ人民ハ果シテ其國  
ヲ賣ルノ權ヲ有スヘキ乎其權ナキ固ヨリ喋々ノ論ヲ待タサル

ナリ、若シ夫レ之レヲ賣却スルヲ得ズレトセン乎賣ルト云ハ  
即チ之レヲ他人ニ渡シテ免債スルノ義ナリ之レヲ他人ニ渡シ  
テ債ハ免カルリヲ得スキモ人民ハ此ヲ立去テ將タ何レノ地ニ  
居ルベキ乎其愚モ亦タ甚シト云フベシ、又タ或ハ唯タ地租ノ三  
ヲ抵當トスルナリト言フベシ、若シ然ルハ則チ其債ノ小額ナ  
ルハ誰カ得テ之レヲ一一土地家産ニ平等分配スルモノアラ  
ンヤ、又タ其債ノ利息巨額ニシテ地租ノ金額ニ均シトスルハ  
獨リ地主ノ三國難ニ任スルモノニ似タレハ土地ハ果シテ能ク  
其價直ノ保ツヲ得ハキヤ如何、又タ獨リ土地ノミヲ抵當ト為ス  
トスルハ其利息ヲ拂フニ何故ニ其地租ノミヲ用テ辨セスレ  
テ普通収税ヲ以テスルヤノ疑問ヲ起スベシ、  
其熟慮ヲ要セサルモ人皆ナ人民ハ國土ヲ賣ルノ權ナク又タ之  
レヲ抵當トスルノ權ナキヲ知ラサルハカラス何トナレハ人民

ハ其住居スル土地ニ於テ唯ク生活ノ利ヲ占ムル權アルノミナ  
リ夫レ實カノ以テ之レヲ維持スルナキ權理ハ真權ニ非サルナ  
リ、是レ猶キ生命ニ必要ナル食物ナクシテ生活ノ權アリト思ヘ  
ルカ如ク皮想假偽ノ權ニシテ背理ノ甚シキモノト冒フヘシ夫  
レ人民ハ其土地ヲ賣渡スノ理ナシ何トナレハ其相續スル子孫  
ハ設令其勝手タルニモセヨ其國土ヲ賣ルノ權ナキカ故ナリ  
抑モ一國ノ人民ヲ舉テ尽ク其先代人タルモノハ土地賣渡約定  
ニ一致セシメテ末代外國ノ善後ヲ受ケシムルハ到底能ハサル  
ナリ、夫レ生活ノ利タルモノハ其生活スル年代ニ於ケル人民カ  
英國土ニ於テ有スル所クモノナリ、然レ獨リ斯ノ如キ生活ノ利  
ヲノミ有シタル人民ニシテ其國ヲ抵當差シテハ賣渡ス等ノ如  
キ權カハ之レヲ有スル能ハス何トナレハ則テ該賣渡約束ニ未  
ク登記セサル人類ノ此ノ土ニ産スル丁虚日ナキカ故ナリ、此ノ

道理ノ故ヲ以テ人民タルモノ、其土地抵當ノ約束ニ一致スル  
ノ義ハ假令セニ三論者ノ終ニ可認スルノ所アルニ似タルニモ  
拘ハラス全ク地ニ落テ復ク主張スルカラサルナリ其論者ノ巨  
擘ハ即チ有名ナル合衆國ノ大統領トーマス、セツェルソン氏是レ  
ナリ、同年在職後殆ント四年乃チ一千八百十三年ニ於テ「ジョン、ウ  
ヰリアム、エビス氏」ニ送リタル文書ヲ看ルニ其内ニ「謬誤(但シ余ノ見  
見ニ誤謬ト認ムル所ナリ)ナキニアラサレド此ノ微瑕ヲ除クハ全文大ニ世  
教トナルベシ故ニ苟モ政府ノ政策圖是ニ関與スルノ位置ニ居  
ル人ハ皆カ銘記セサルハカラサルモノナリト信スルナリ其文  
即チ左ノ如シ  
夫レ政府ハ信用ヲ世間ニ保持シ其國力不定分外ハ其信用ヲ安  
用セス而シテ其債ヲ募ルモ期限内元金ヲ支消スル為メ又夕年  
々其利子ヲ拂フ為メ預メ稅額ヲ莫當ニテ稅ヲ課シ其稅ハ債

主ニ既ニ抵當セシモノト着做スニ非サレハ決シテ一帯ヲモ徵  
集セサルヲ以テ賢良ノ規則トス、政府若シ其債金ノ額ヲ人民一  
般ニ課税スル所ハ或ハ人民政府ニ向テ不満ヲ唱ヘ終ニハ不測  
ノ災害(謀又)ヲ喚起スルヤモ謀ヲレサレモ若シ前段ノ如キ抵當  
ヲ為シ固ク其約束ヲ守ル所ハ必ラス相當ノ利息ニテ其人民ノ  
可貸金ヲ尽ク容易ニ募集スルヲ得ヘシ然リト雖モ又適宜ノ  
償還期限ヲ確定セサルヘカラス則チ宜シク之レヲ國カノ定限  
内ニアラシムヘシ異論者アリ誰カ國カノ定限ヲ定ムルヤ誰カ  
無期債ト募集スルヲ禁スルヤト問ハレ余ハ則チ天然法アリテ  
乃チ之レヲ禁スト答ヘシ夫レ此ノ土ハ活人ニ属シテ死人ニ属  
セズ、人ノ此ノ土ニ於ケル権理ハ其生命ト共ニ尽キルモノナリ  
是レ即チ天然法ナリ、或ル社會ハ勸業ノ為メニ其斷絶ヲシテ人  
為ニ據ラ之レヲ永續セシムルアリ、又チ或ル社會ハ此ノ永續ヲ

嫌惡スルアリ例之ハ余輩ノ常ニ夷狄ト稱スル邊境ノ土人ノ如  
キ是レナリ然リト雖モ人間ノ歴史ハ恰モ一辟即チ社會ノ代謝  
スルカ如ク然リ而シテ各世其連續スル期限間土地所有ノ權ヲ  
有ス其甲ノ一世經過スルハ其權ハ乙ノ一世ニ遷テ復チ甲世ノ  
關係ナリ斯ノ如クニシテ世々相承ケテ無窮ニ至タル又各一世  
ヲ以テ一國民ト見做レ過半数ノ意ニヨリ一權ニシテ數世ヲ相  
結合スルヘシト思考スルヲ得ベキカ如クナレモ是レ猶ホ甲國カ  
乙國ノ人民ヲ結合スルノ權ナキカ如ク甲世ニシテ乙世ヲ結合  
スルノ權ハ有セサルモノナリ或ハ又チ右ノ場合ヲ以テ終身借  
地者ノ場合ニ比ス死テ得ルニ似タレモ終身借地者タルハ其所  
有權ノ續ク間即チ終身ノ間ハ其借地ヲ以テ負債ノ抵當ト為ス  
ヲ得ベシト雖モ其死スルニ當テ其借地相續人(此ノ人モ亦終  
身所有權ヲ有スルノミ)之レヲ受取ル所ハ抵當質入等一切負

擔ノ重任ヲ蟬脱スルモノトス。一世ノ時限即チ一生ノ期限ハ人間死亡定法ニ據テ確定シタルモノナリ人類ノ死亡スルヤ各國氣候風土ノ異ナルニ從テ數々不同アリト雖モ實地ノ注意ニ由テ其平均ヲ知ルベシ、余ハフオシ氏ノ死亡表ヲ案スルニ二萬三千九百九十四人ノ死亡及ヒ其死時ノ年齢ヲ記セリ、而レテ同時ニ生活スル老幼ノ人負ニ付キ其半數ハ二十四年八月内ニ死亡シタルヲ見ル然リ而レテ其内ヨリ未タ自立ノカヲ有セサルハ兒ヲ除キテ同時ニ生活スル成人ニシテ多分ハ社會ノ交際ヲ為ス。モノ内ニ付キ其半數ハ十八年八月内ニ死亡スルヲ見ル然ラハ則チ土地ヲ抵當トシ債ヲ募集セシ時ヨリ十九年ノ内ニ其募債者ノ過半數ハ死亡スルカ故ニ其土地抵當募債ノ約束モ其人ト共ニ消失セカレベカラス、余今マ此ノ普通ノ道理ヲ以テ實際ノ事實ニ應用スベシ、例之ハ「ヨロイ」ヨ「シ」洲各年ノ出生(蓋シ男

子乎)ヲ二萬三千九百九十四人ナリトスルハ「フオシ」氏ノ計算ニ從フニ老幼住民ノ全數六十一萬七千七百三人(蓋シ男子乎)ナリ、其内二十六萬九千二百八十六人ハ常ニ幼屬ニシテ三十一萬八千四百七十七人ハ成人ナリ、而シテ其成人全數ノ内十七萬四千二百九十八人即チ其全數ノ過半數ナリ、今マ其過半數ノ人負カ下千七百九十四年六月第一日ニ於テ該洲ノ地價ニ均シキ金額ヲ借入レ之ヲ以テ飲食奢侈快樂ニ消費シタル乎、若シクハ害ヲ加ヘサルハ鄰邦ト無益ノ爭鬪ヲ為スノ費用トセシモノト假定セヨ、然ルモ十八年八月内ニ該成人ノ半數ハ死亡ス、其時ニ至ル迄ハ該成人ハ猶モ過半數ナルヲ以テ毎年其負債ノ利息ヲ自己及ヒ同邦民ヨリ徵集スルハ固ヨリ正當ノ理ナルモ其十八年八月ノ終ニ至テ必ラス更ニ新過半數ヲ来タスヤシ、但シ其新過半數タルヤ自己ノ權利ヲ有スルモノニシテ前過半數ノ權



利ト約束トニ從フモノニ非ス、故ニ前世人ハ終身中ニ國土ヲ舉  
テ尽ク衣食ニ供シ尽シ或ハ之レヲ賣渡(蓋シ債主ニ賣渡スコト  
アリ)スノ權ヲ有セルモノト為スハキヤ又タ自カラ徳義上ニ法  
律上ニ其國土ヲ債主ニ渡シテ其生活ノ為メ他國ニ移住スヘキ  
義務アリト為スヘキヤ人將タ云ハシ決シテ否ラス、夫レ國土ハ  
造化ノ惠賜ニシテ乙世人(現ニ生活スル人)ニ賦與スルハ猶ホ甲  
世人(既ニ死去セシ人)ニ賦與セシト同様ナリ、故ニ獨リ乙世人ノ  
ニ負債ヲ辨償スル義務アリト云フハ天然法ノ許サ、ル所ナリ、  
此ノ通義タルヤ他ノ天然權利ノ如クテクテトシヨシ、オフ、ライ  
ト(即チ、ビル、オブ、ライ、ト)ト合成セシモノニテ第三世(即チ、ア、  
ヒ、マリ、ト)ノ制定律ナリ)ト中ニ記ヤスト雖モ確然タルニ法律ニ  
シテ善良政府ヲ實施セサルヤカラサレモ、ヤ明クカナリ  
且ツ之レカ為メ生ズベキ直接ノ利益ハ大ニ戰爭ヲ好ミ募債ヲ

嗜ムノ氣風ヲ減殺スベシ蓋シ國債募集ノ政策起リシ以來戰爭  
ヲ好ミ募債ヲ嗜ムノ氣風最モ盛ニシテ為メ三人血ヲ該國土  
ニ流シ其生靈ヲシテ漸次累積ノ重債ニ困迫セシメタリ嗚呼英  
國ニシテ若シ此ノ道理ヲ以テ、ビル、オブ、ライ、ト(即チ、ア、  
ヒ、マリ、ト)ノ制定律ナリ)ノ内ニ記シテ遵奉セシコトアリセハ決シテ  
血ヲ永久ノ戰爭ニ流シ數億万ドルヲシテ國債ヲ募集スルノ禍  
ハ蓋シ之レアラサルバシト信スルナリ(ゼツ、エ、ル、ソ、ン、氏、ノ、コ、ル、レ  
ス、ポ、ン、テ、ン、ス、卷、ノ、第、二、百、二、葉、一、千、八、百、十、三、年、六、月、二、十、四、日、  
「ソ、ン、ダ、ブ、リ、ウ、エ、ヒ、ス、氏」ニ送リタル文又見ヨ) 然レモ、  
右文中理論其當ヲ得サルニ似タルモノアリ其幼属ニ関スル論  
理是レナリ、此ノ幼属ノ理論ヲ案スルニ其幼属ノ合法成年ニ達  
スルハ唯タ終ニ數日ヲ缺クベキモノモ有ルハキニ概シテ殆  
ト十九年間ハ其是認セサルモノ、如シ、而シテ一端其自餘ノ政

権ニ関スル年齢ニ至タレハカヲ以テ脅迫スヘカヲサルニ此ノ  
成年ニ於テ却テ其嫌惡スル所ノ方法ニ曲從セシムルモノ、如  
シ、夫レ十九年ノ各日ニ於テ一人以上ノ幼属ハ成人トナラサル  
ヘカラス、故ニ其不及半數ヲ増加セサルヘカラス其不及半數ハ  
則チ當時過半數ノ制定シタル政策ヲ是認セサルモノナリ然レ  
ハ、諒不及半數ノ數年ヲ経テ過半數トナル中ハ強テ曠昔ノ政策  
ニ從ハシメント欲スルモ得ヘカラスナルナリ蓋シセツルソレ氏  
此ノ理ヲ知ラサルナリ、然リ而シテ其不及半數ノ過半數トナル  
ハ、必テ十、九年ヲ待ツサルナリ、其故何トナレハ當時過半數ノ  
半數即チ成人全數ノ四分ノ一ハ十一年ノ内ニ死亡スヘシ、然ル  
中ハ即チ諒十一年ノ終末ニ於テ過半數ハ減シテ三万七千五百五  
人トナルベシ、然リト雖モ同十一年間ニ幼属ノ半數必テ成年  
ニ達スベシ、若シ此ノ幼属ヲレテ尽ク生存シテ成年ニ達セリト

スル中ハ前日ノ不及半數ニ十三万四千六百四十二人ヲ増加ス  
ヘシ是レ則チ前日ノ諒政策ニ同意セサル一大過半數ナリ、假令  
ト十一年間ニ幼属ノ内チ死亡スルモノアリトシ其人負ニ付キ  
正當ノ減數ヲ為スモ尚ホ諒券債政策ニ一致セザル過半數アル  
ヘシ然レハ、則チ諒國債定約ハ此ニ尽ルモノト云ハサルヲ得ス、  
夫レ償還期限十一年ノ債ヲ募集スルモ決シテ政府用度ノ目的  
ヲ達スル能ハサルヤ明テカナリ、然リト雖モ大統領、ゴフルツシ  
氏ノ理論ニ據ル中ハ假令ト人民ノ其國ニ金錢ヲ貸與スルヲ以  
テ道理上許スヘキコト、スルモ其レ此ノ期限ヲ以テ最久ノ期  
限ト云ハサルヲ得ス、況ンヤ金錢ヲ以テ其國ニ貸與スル、カ如キ  
ハ人間社會ヲ維持スヘキ天然法ノ定ムル義務ヲ破壊スルモノ  
ナルニ於テオヤ、  
上文ニ開陳シタル如ク國債券集ノ背理害惡タル國ヨリ少シセ

ス就中其最大嫌惡ナル點ハ後世子孫ノ勤勞ヲ以テ之レカ抵當  
トスルモノ是レナリ、何トナレハ即チ年利息及ヒ元金償還ノ如  
キハ皆チ後世ノ國民勤勞ノ成果ヲ以テ辨償スヘキカ故ナリ、是  
レ此ヲ天然法ニ於テハ無論法律ノ種類ヲ問ハス万法ノ背犯ト  
云ハサルヲ得ス、夫レ地球上何レノ地ト雖モ父母タルモノ其負  
債ノ辨償ニ充ツヘキ所産ヲ其ノ子ニ遺スニアラサレハ其子ヲ  
シテ父母ノ負債ヲ擔當セシムヘキ法律アルヲ聞カス、夫レ其子  
ノ未タ出生セサル以前ニ於ケル負債ノ利息ヲ拂ハシカニ其  
子將來ノ勤勞ヲ以テ之レカ抵當トナスハ其實、其子ヲ奴隸ニス  
ルト一般ナルヲ免セス、此ノ如キ抵當ニセラレテ出生セシ幼兒ハ  
其身分既ニ奴隸ナリ、其身ハ他人ノ有ニシテ已レノ身ニアラヌ  
其稱謂ノ何タルヲ問ハス已レ其勤勞ノ成果ヲ得ル能ハスレテ  
他人ノ有トセラレハ、モノハ乃チ奴隸ニシテ復タ之レヲ奴隸ト

稱セサルヲ得ス抑モ奴隸ト名ツクルモノハ其勤勞ト其勤勞ノ  
成果ハ他人ノ所有トナリテ已レノ有ニアラサル人ヲ斥スノ義  
ナリ故ニ其勤勞ヲ以テ國債利息支辨ノ抵當トセラレハ人ハ又  
タ此ノ類タルヲ免カレス、  
夫レ此ノ如キ奇怪ノ政策ハ苟モ稍々自由政治ヲ以テ統治スル  
ノ名アル邦國ノ風俗格言ニハ全ク背戾スルヤ識者ヲ待テ而シ  
テ後ニ知ラサルナリ自由政治ノ一格言ハ則チ自由政治ノ國  
ニ於テハ人民自由ニ代議士ヲ撰舉シテ之レヲ國會ニ出シ其過  
半数ノ決議ニ因ルカ故ニ一人トシテ自己ニ是認スルコトナレ  
テハ課税セラル、モノナキ則チ是レナリ、一ニ主治者ノ專斷ヲ  
以テ恣ニ人民ノ財産ヲ奪フハ故ナクシテ人ヲ虐殺スルニ髣髴  
タルノ暴政ト云ハサルヲ得ス人民ノ是認ヲ得サルノ課税ハ之  
レヲ公盜ト謂フ然ルニ若シ後世子孫ノ是認ヲ得ル能ハサルニ

其勤勞ヲ抵當トシテ募債シ此レニ其利息ヲ支辨セシムルハ是レ復タ彼ノ公盜ト何シテ擇ハシ夫レ口ヲ閉クハ自田ヲ説クノ人ニシテ國債ノ理論ヲ是認スルハ恰モ國債實際ノ成果ヲ甘受スルト一般ナルハ誠ニ怪シムヘキナリ、大法官オクゼンズナール氏ノ要訣ニ云ク行矣ヨ吾兒而シテ人間世界ヲ管理スル智ノ足ヲサルヲ見ヨト善哉此ノ言ヤ以テ其人ノ卓識ヲ想フヘキナリ、

國債弊害ノ條目ヲ結フニ當テ猶ホ一事ヲ叙スヘシ即チ其弊害タル博來ノ氣勢ヲ醸成スルモノ是レナリ、夫レ此ノ氣勢タルヤ國債ノ募集ヨリ生スルモノニシテ即チ國債ノ元質ト云フベシ夫レ巨大ノ金額ヲ政府ハ貸與スル人ノ談貸与ヲ為スヤ尋常貸与尋常借ト大ニ其性質ヲ同シフスルト思フヘカラヌ例之ハ政府ノ國債ヲ募集スルニ當テ債金各百封度ニ就テ何程ト云フ其利息ガ

法律上許ス所ノ割合ニ於テ最モ高度ナル乎若クハ當時ノ通價ナリト假定セヨ而シテ此ノ利息ヲ拂フカ故ニ其呼高ノ金額ヲ得ル能ハスト假定セヨ蓋シ其然ル所以ノ理ハ則チ貸主タルモノ全負ヲ要スルキニ至リテハ所謂ル公債証書ヲ他人ニ賣テサルヲ得サレハナリ而シテ其公債証書ヲ陸續賣捌テ利益ヲ得シト望メハ又タ先喚ノ設計ヲ試ミサルヲ得サルナリ是レ故ニ政府債ヲ募集スル所ハ投機者博奕者ノ輩公債証書ノ價格ヲ騰貴セシカ為メ種々欺騙詭計ヲ逞シウスルニ至ルヘシ而シテ政府モ亦タ之レカ為ニ復タ大債ヲ起サシルヲ得サレ事情ニ逢遇スルニ至ルヘシ政府ノ其大債ヲ募集スルヤ一回一回其額スルノ已ムヲ得サルニ至ルヘシ是レ國債政策ノ為メニ社會ノ法律ヲ破壊スルノミナラヌ又タ募債ニ付テ社會ハ博奕者ノ欺騙強奪スル所トナリ恰モ國立博奕所ヲ設立シテ公ニ博奕ヲ為サシ

ムルカ如シ、所謂ル小册房ノ如キハ是レヲ此ノ国立博奕呼ニ比  
較スレハ其害甚ク僅微ニシテ之レヲ罰スルニ足ラサルカ如ク  
然リ

以上論スル所ハ則チ國債ト稱スルモノ、世實ト其成果ナリ、抑  
モ國債タルヤ公明正直具眼ノ人ハ必ス到底其方法ニ背戾シ万  
徳ヲ破壊スルノ政策ニ根據スルヲ着破スベシ、然レモ唯タ此ノ  
不良ノ政策ヲ補助賛成スル人ノ愈々益々増盛スヘキヤ否ヤハ  
今マ之レヲ判決スルニ苦ム所ナリ、然リト雖モ各人其意見ヲ異  
ナル所事ヲシテ其此ノ疑問ヲ判決スルモ亦タ異同アルベシ然  
レモ彼ノ滔々タルモノニ拘ハラズ茲ニ正直ノ干城トナルモノ  
ハ達理ナリト信スルナリ

余輩今ヤ後章財政ノ史ヲ談スルニ先シテ陳述セサルヘカラサ  
ル誘導篇ノ安ナル文ノ結末ニ到レリ而シテ余ハ此ノ冊子ノ本

論タル歴史ヲ通曉スルニ此ノ篇ノ道理ヲ了解スルノ緊要ナル  
ヲ信スルカ故ニ今マズビノガ氏教諭ノ言ヲ引テ本章ノ旨ヲ結  
ハサルヲ得ス、即チ其言ニ云ク我輩ノ今マ閱味シタル主義ハ皆  
ナ本編ノ基礎根本ナルカ故ニ茲カ讀者次條ニ進行スルニ先シ  
テ再三右ニ章ヲ熟讀センコトヲ切望ス夫レ之レヲ熟讀通曉スル  
非ハ果シテ余カ論ハ徒ニ奇ヲ好ムノ新説ヲ為シテ世ヲ誤マル  
モノニ非ラスシテ唯タ近世ノ謬誤ヲ解釋シ天下ノ公衆ヲ昏テ  
正理ヲ悟ラシメント欲スルニ外ナラサルヲ知ラシ

第三章終

第四章

一千六百八十八年ノ大變革ノ英國銀行ノ設立ノ國債ノ濫  
業觴ノ時ニ於ケル貨幣ノ價直ノ租稅院ノ發行ノウキリ  
余輩今マ已ニ此ノ冊子ノ本論ナル英國財政ノ事ヲ談スルノ場  
合ニ到レリト雖モ之レニ先ニ第一章ノ終末ニ於テ既ニ開陳  
セタル國中黨派分裂ノ情況ヲ再ヒ概論スルヲ以テ適當ト信ス  
ルナリ抑モ一千六百八十八年ノ大變革ニ由テ和蘭ノ部長ウキリ  
アムヲ迎ヘテ大英國ノ王位ニ即ケシメ之レヲウキリアム三世ト  
稱ス此ノ時ニ當テ英國ハ許多ノ黨派分裂ニ互ニ相敵視争鬪ス  
ルノ情況アリ其第一ヲ「ロトマニカトリック」天主教宗黨ト稱シテ  
一大強黨ナリ其黨類最モ英蘭及ヒ愛耳蘭ニ多ク

及ヒ愛耳蘭ニ多ク

貴紳ノ人又タ多ク此ノ教派ニアリテ非常ノ富實ト勢力ト有  
セリ而シテ此大變革ノ為メニ更ニ其奉教回復ノ希望ヲ失ヒ大  
ニ分志ヲ抱ケリ第二ヲハイチャーチメン大英皇家聖會人ト稱ス  
此ノ教黨タルヤ自カラ法律ヲ以テ確立シタル英國寺院（按スル  
ニ即チ英國宗ナリ）ノ黨ナリト稱ス然レニ隱然舊教ト再合ヲ謀  
ルモノナリ第三ハローマンカトリックト仇讎ノ教會黨ニシテ新  
教ノ勢力ヲ維持スルニ決心スルモノナリ第四ヲブレスピテリ  
ヤレ長老教會黨ト稱ス此ノ教黨タルヤ英國宗ヲ憎惡スルト殆  
シト羅馬教ヲ憎惡スルカ如キモノナリ第五ヲインデペンデン  
トヂッセントル（獨立不羈教黨）ト稱ス此ノ教黨タルヤ諸教異說者  
ノ集合ナルヲ以テ其内ニ羅馬教ヨリテイスマ教（上帝アルヲ信  
シテ唯タ天啓ヲ信セザル教）ニ至ル迄都テテ教派ヲ含有スルカ  
如シ然リト雖モ特ニ法教ノ自由ヲ主張シテ一種ノ宗教ヲ確立

スルノ不正ヲ論セリ右當時教黨ノ情況ナリ又タ政黨ニハ第二  
ヲ王黨ト稱ス此ノ黨タルヤ先主ゼームス二世ノ國是ヲ憐ビス  
ト雖モ復タ該大變革ヲ是認セサルモノナリ第二ヲ民黨ト稱ス  
即チ其所有スル舊教會領地ヲ失ハンコトヲ恐懼シテ大變革ヲ起  
シタルモノナリ第三ヲ共和政治黨ト稱ス即チ道理ニ因テ大變  
革ヲ主張シ宗旨ニ於テハ奉教自由ヲ唱ヘ政治ニ於テハ自己ノ  
政府ヲ撰定スヘキ人民ノ権理ヲ唱ヘリ此ノ理タルヤ民黨ニ在  
テハ同意スルコトヲ好マス其言フヘクシテ行フベカラサル主義  
ナリトスル所ナリ右ハ當時ノ最モ危峻ナル年代ノ黨派ナリ而  
シテ新主及ヒ其黨類ノ権ヲ得タルハ職トシテ此ノ如キ黨派ノ  
異論ナク同意セシニ由ルモノナリ又タ其新政府ノ強黨ヲ引テ  
以テ自カラ強大ニスル方略ノ行届キタルカ故ナリ當時内國情  
勢ノ自カラ然ラシムルハ疑ヲ容レサルナリ故ニ當時大變革ノ

時ニ當テ英民ノ一部ヲモ之レニ抵抗スルナク容易ニ其成功ヲ  
為スヲ得タルヤ明ラカナリ蓋シ英民舉テゼームス王ヲ嫌惡シ  
徒テ又タキルクセフリースノ如キ該王ノ嬖臣ヲ敵視セリ是ヲ  
以テ該宗教改革(按ニ即チ新教ノ勝利ヲ得タル一千六百八十八  
年ノ大變革ノ時ヲ云フ)タルヤ其初メハ人皆チ之レヲ憚ビサリ  
シモ機ヲ見テ憤發シタル宗徒ノ尽力ニ由リ稍ヤ進行スルヲ得  
タリ然リト雖モ此ノ時人民尚ホ未ク非常ノ貧困ト壓制ニ困レ  
マサルヲ以テ陸續大變革ヲ起スノ精神ヲ伸暢スルニ至ラス新  
朝ノ多半左嶮ノ時ニ於テ猶ホ且ツ人民ノ此ノ危嶮ヲ挽回スル  
ノ同情心ニ乏シキヲ知ルヘシ是レ當時有名ナルホレーヌウオル  
ポールの氏ニ依テ證スルヲ得ヘシ夫レホレーヌウオルポールの氏ハ  
元來民黨ノ巨魁當時ノ王室ハノール家ノ黨ニシテ後チ深ク  
人民ノ無氣無力ニシテ非常ノ改良ヲ為ス能ハサルヲ歎シタル

程ノ人ナリト雖モ當時ニ在テ新教ヲ維持シ益々人民ガ自由ヲ  
皇張セシヲ視サルナリ  
夫レ右ノ如ク人民ハ方向未ク確定セス貴族ハ猶ホ心服セサル  
ノ形勢ナルカ故ニ新政府ノ政略ハ人民ニ權利自由ヲ許シ又タ  
商人ヲ利シテ之ノ方策ヲ施シ務テ人心ヲ收攬セント欲スルノ外  
他事ナカリシナリ其政略ノ第一ノ結果ハ則チビルオフライト  
ノ議決ニシテ第二ノ結果ハ英國銀行ノ設立及ヒ國債初度ノ募  
集是レナリ然リ而シテ其第一結果ノ主義ハ自カテ尋常ノ歴史ニ  
属スルカ故ニ余ノ今マ此ノ財政史ニ於テ記載ヲ要スルモノハ  
唯タ第二結果ノ主義ナルノミ  
抑モ英國銀行ノ設立及ヒ國債初度ノ募集ハ一千六百九十四年  
ニシテウヰリアム及ヒマリノ即位第六年ナリ是レヨリ先キ佛  
國王路易十四世屢々兵ヲ鄰國ニ出シ新教徒ヲ根絶シ歐洲各國



ヲ併吞セントシタルヨリ戦乱殆ント止ム時ナカリシカ英國ニ  
大變乱アリシヨリ一層其慘毒ヲ逞シウセリ且ツ愛爾蘭ノ如キ  
ハ久シク其戰場タリシガ終ニ局ヲボトシノ勝利ニ結ヒ更ニ「フ  
ランダース」ニ於テ再ヒ戰場ヲ開ケリ今日白耳義ノ名ヲ以テ稱  
セラル、地方ニ於テ英蘭其他同盟國ノ兵ト佛兵ト砲銃ヲ交ユ  
ルヲ數百度ニシテ互ニ勝敗アリ其時ニ於テ同盟兵ハ「ウヰリアム」  
王自カラ之レヲ督ス終ニ一千六百九十七年ニ至リテ「リスウヰッ」  
ノ和成リテ一時各國其兵ヲ收メタリ英國ニテハ諛戦争ニヨリ  
テ非常ニ專資ヲ費シ為メニ新政府ノ國帑困難ヲ告クルニ至レ  
リ夫レ「ゼームス」王ノ其位ヲ退キシ時ニ當テ既ニ當時十分ニ整  
備シタル陸海軍ヲ舉テ「ウヰリアム」ノ手ニ属シタルハ疑ヌ容レサ  
レ正歳收ノ手ニ入りシモノハ僅々ニシテ毎年ニ百萬封度ニ過  
キサルナリ又テ其人民ハ皆テ前ニ世（俱シ「チャールズ」ニ世及ヒセ

「ムスニ世」ノ遺民ナレハ其姑息偷安ニシテ用度ノ費途ヲモ簡  
略ナル弊政ニ狎シ且ツ夫ノ久年議院ノ民財ヲ剝削セシメニ懲  
リテ自然ニ收税ヲ嫌惡スルノ甚レキ終ニ其收税ハ自由ノ良法  
ナルモ一般コレヲ疾視スルニ至レリ此ヲ以テ騷擾ノ後久シ  
カラス迄ニ政府ハ是レカ為メニ重大ナル金救ヲ供給者ナル中等  
社會即チ商人ヲシテ歳費ノ増額ヲ是認セシムルノ方策ヲ工夫  
シ且ツ人民ノ不平ヲ惹起スヲナクシテ右等外國戰爭ノ用度ニ  
供スル金救ヲ徵集スヘキ政略ヲ定メ計ルベカラサルノ情勢ニ  
遭遇セリ而シテ此ノ時英王ハ其會計ヲ維持スルニ其生國和蘭  
ノ實例ニ倣ヘリ夫レ和蘭ノ國土タルヤ土地狹少人口寡少而シ  
テ天險ノ據ヲ以テ外寇ヲ防禦スヘキモノナキニ其位置タルヤ  
大國ノ間ニ狹マレ邊境多事ナルヲ以テ其國帑ノ費用ハ則チ歐  
洲大國ニ異ナラス故ニ夙ニ外國貿易ニ從事シ益々開進ヲ致セ

リ而シテ其蓄積シタル金銭ヲ以テ數年其國費ヲ支辨スルヲ得  
タリ昔バ「ナイス國」(填屬伊太利ノ一部)和蘭ト其國是ヲ同ジクセ  
シカ氏和蘭人ハ連年其騷亂ノ止マサルヨリシテ終ニ古昔「ナ  
イス」ノ嘗テ試ミサルノ政策ヲ創立スルニ至レリ其政策ハ即チ  
紙幣ノ製造及ヒ此ノ紙幣ヲ發行スヘキ銀行ノ設立其紙幣ノ借  
入法及ヒ政府ノ方ニ在テ唯々利息ヲ拂フ債ノ創成但シ其利息  
ハ人民ニ課税シテ之レヲ辦償スルモノナリ是レ則チ和蘭國ニ  
在テ機械ヲ設置シテ其運動ヲ試ミタル初ノナリ此ノ時ニ當リ  
右ニ付テ直接ノ利益ヲ有スル人カ若クハ皮相ノ速了者輩ハ以  
テ其機械有益ノ運動ヲ爲セリト云ヘリ是故ニ直ニ英國ニ於テ  
モ此ノ機械ヲ摹倣シ之レヲ設置スルノ議アリシ而シテ一千六  
百九十四年ニ至テ一大怪異ノ變動ヲ生シタシク持續シテ終ニ  
英國及ヒ國民ノ運命ニ非常驚愕スヘキノ影響ヲ及ホシタリ是

レ則チ政府ノ認許ヲ得テ以テ英國銀行ノ名稱アル銀行ノ設立  
是ナリ(其後)夫レ銀行ノ設立タルヤ「ドクトルヒウ」(バトラー)氏初テ之  
レヲ建議シテ用ヒラレシ後チ蘇格蘭人「ギルベ」氏「バル」氏  
蘇格蘭人「フェル」氏「レ」邑ノ産ニテ「エングラ」ドノ一市ナル  
「サリス」バリ「ト」ノ督教ナリ而シテ「ウ」リ「ア」ム「王」ノ嬖幸ナリト同レ  
ク蘇格蘭人「ウ」リ「ア」ム「バ」テ「ル」ソ「ン」氏ト共ニ銀行設立ノ考案ヲ建  
議シ幸ニ採用ヲ得タリ「バル」子「上」氏「富」和蘭ニ在リシ「銀行」ノ  
事業ヲ視テ自カテ其大益アルヲ知リ新政府目下財政ノ困難ヲ  
故ニ國帑ノ缺乏ヲ補ヒ國債ノ増進收税ノ繁多ナル際ニ於テ國  
家ノ繁榮ヲ回復セント欲セハ銀行ノ便益ニ由ルノ外益シ他ニ  
術ナシト確信セテレシナリ而シテ新政府ノ此ノ如キ扶助ヲ要  
スルニ切ナルハ固ヨリ必然ナリ當時歲入ハ以テ歲費ヲ支ユル

ニ足ラス政府ハ財信ヲ人民ニ失ヒ為ノニ租稅院手形及ヒ借票  
等ノ如キ證券手形ノ價直ハ非常ニ下落シ政府殆シト破産セン  
トスルノ行情ニ至レリ而シテ當時此ノ行情ヲ回復セント欲セ  
ハ銀行ヲ除テ他ニ求ムヘキ道ナキガ故ニ國王内閣共ニ銀行ノ  
設立ヲ望ミ之レヲ議院ニ附セシニ上下兩院ニ於テ種々討論ノ  
後終ニ之レヲ認許セサルヲ得スレテ開業初度免狀ヲ下附セリ  
實ニ紀元一千六百九十四年七月二十七日ナリ夫レ此ノ一日ノ  
真ニ至要ニシテ忘ルヘカラサルハ歷代諸王ノ更迭ニ過クル  
五十倍猶多シト為サレリナリ  
余輩ハ今マ銀行設立ニ繼テ發生シタル事實ヲ詳説スルニ先レ  
テ其設立ノ時ニ於ケル通貨ノ價直ヲ確知セサルヘカラズ何ト  
ナレハ則チ其當時ノ價直ヲ知ルニアラサレハ再未談銀行事業  
ノ為メ通貨ノ貨直上ニ生シタル浮沈變化ノ程度ヲ知ル能ハサ

ルカ故ナリ故ニ余輩ハ今マ當時通貨ノ價直ヲ考究スベシ抑モ  
一千五百二十五年西班牙國終ニ白露及ヒ墨西哥ヲ征服シ葡萄  
牙ハブラジールヲ征服シタルヨリ爾後殆シト二百年間金銀陸  
續トシテ歐洲ニ流入シ銀行設立ノ時既ニ其極ニ達セリ銀行設  
立ノ前ニ當テブラジールニ於テ金鑛ヲ開發シタリシト雖モ後  
チ速ニ世界中ニ滿溢シタルカ故ニ一千六百九十四年頃ニ至リ  
テハ金銀諸方ニ行涉リ各國多寡ナク分配既ニ水平ニ達シテ復  
タ甚シキ需要ナク年々採掘シ得ル所ノ額數ハ歐洲通貨ノ唯タ  
摩耗用壞破損ヲ補ヒ器具粧飾ニ使用スルニ過キガハ至レリ  
夫レ金銀塊流入ノ為メニ下落シタル貨幣ノ價直ヲ確知スルニ  
其標準ノ據ルヘキモノ甚ク少ナシト雖モ今マ余輩ノ知ル所ニ  
據テ之レヲ徵セン余輩熟考スルニ該下落貨幣ノ價直ヲ知ルニ  
最モ確實ノ標準ハ則チ其時限ニ於ケル小麦ノ平均價直ト今日

= 於ケル其平均價直トヲ比較スルモノ則チ是レナリ此ノ比較  
 フ為スニハ自カラ事實ノ今日ニ徴スヘキモノアリ即チオックス  
 フォルド(英國中央州ノ一ナル「オックスフォード」ノ首有)ノ小麦市價表  
 ハ「レ」デ「イ」デ「一」三月二十五日ヲ云フ「三」ケルマス(九月二日)ノ兩日  
 = 於テ最高價ト最低價トノ平均ヲ取テ計算シタルモノナルカ  
 故ニ之レヲ確實ノモノト云ハサルヲ得ス此ノ表ニ據ルハ夫  
 ノ銀行設立ノ年ヨリ以前即チ一千六百九十四年ヨリ以前十二  
 年間ノ價直ハ則チ左ノ如シ

小麦ノ價直

年紀	每ゴトトル	志	片
一千六百八十三年		三年間	各八
一千六百八十四年	三六	六	八
一千六百八十五年	四	三	八

一千六百八十五年	二	八	七
一千六百八十六年	二	六	七
一千六百八十七年	二	七	七
一千六百八十八年	二	三	七
一千六百八十九年	二	八	七
一千六百九十年	二	七	六
一千六百九十一年	二	九	二
一千六百九十二年	三	九	七
一千六百九十三年	五	六	三
合計	三	七	四

右合計三百七十四志五片ヲ以テ十一箇年ニ割付レハ則チ其十  
 一ヶ年ノ平均價直每「コ」トルニ付テ三十四志一分ノ五ナリ  
 此ノ計算表ニ據ルハ則チ十一年間「オックスフォード」小麦ノ平均

價直ハ一ゴートルニ付テ三十四志十一分ノ五(高價)ナリ然リト  
 雖氏其十一箇年ノ内一千六百九十二年及七九十三年ノ二箇年  
 ハ英國ノミナラス全歐洲悉ク小麦大飢饉ノ初起ニ當リシヲ  
 記念セサルベカラス又タオックスフォルド物價報告上ノ價直ハ常  
 ニマートクレール(英國リマセト洲ノ首街)物價報告上ノ價直ニ過  
 過スルヲ忘ルベカラス其マートクレール物價表ト雖氏全國平  
 均物價表ニ比較スレハ較々其高價ナルヲ見ル況シヤオックスフォ  
 ルド物價表ニ於テオヤ故ニ此ノオックスフォルド物價表ヲ以テ全  
 國物價ヲ推知セント欲セハ先ツ大ニ此ノ表上ノ高價ナ  
 ル價直ヲ減殺セザルベカラス因テ今マ余右ノ情況ヲ參考シ一  
 ゴートルニ付テ五志ヲ其物價表ヨリ減少スベシ然ルキハ則チ  
 一ゴートルニ付テ其價直二十九志トナル此ノ二十九志ヲ以テ  
 一千七百九十三年佛國トノ戦争以前七箇年間小麦ノ平均價直

オックスフォルド物價表ニ據ルニ比較スレハ則チ左ノ如シ

年	價直	志
一千七百八十六年	...	四一志
一千七百八十七年	...	四九志
一千七百八十八年	...	...
一千七百八十九年	...	...
一千七百九十年	...	...
一千七百九十一年	...	...
一千七百九十二年	...	...
合計	...	三三七

右合計三百五十七志三片ヲ以テ七箇年ニ割付レハ則チ平均一  
 ゴートルニ付テ五十一志七分ノ二トナル此ノ五十一志ヨリ後

夕五志ヲ減スルハ則チ全國ノ平均價直ハ一〇一トルニ付テ  
四十六志ナリ余輩ノ今マ五志ノ減額ヲ為スハ其當ヲ得タルモ  
ノト云フヘシ何トナレハ十八世期ノ終末ハ十七世期ノ終末ニ  
同シク大荒歲ニシテ右七年間ハ寧ロ之レヲ飢歲ト稱スベキガ  
故ナリ右ノ比較ニ據テ觀ルハ一千六百九十四年ニ於ケル債  
幣ノ價直ト一千七百九十二年ニ於ケル債幣ノ價直ハ則チ二十  
九ト四十六トノ如キヲ知ルヘキナリ即チ之レヲ分數算ニ據テ  
言ヘハ殆シト三分ノ二ト三分ノ一トノ如シ是レ却テ一千六百  
九十四年ノ債幣ノ價直ハ一千七百九十二年ノ債幣ノ價直ヨリ  
モ高キト三分中ノ二分ニ居ルカ如キナリ精シク之レヲ言ヘハ  
年ノ豊歉ヲ平均シテ一千六百九十四年ニ於テ二十九志ヲ以テ  
買フヲ得ヘキ小麦ノ額數ハ一千七百九十二年ニ於テハ四十六  
志ヲ以テ買フヲ得ベキ小麦ノ額數ト均一同額ナルヘシ故ニ一

千七百九十二年ノ債幣ノ價直ハ全ク三分ノ一ヲ下落セリ之レ  
ヲ他ノ言語ヲ以テ釋スレハ一千六百九十四年ノ債幣ノ價直ヨ  
リ全ク三分ノ一ヲ下落セリ  
又夕現今ノ債幣ノ價直ヲ以テ一千七百九十二年ノ債幣ノ價直  
ニ比較スルハ甚ク困難ナリ何トナレハ則チ是レ數十年間穀物  
ノ價直及ヒ地稅ヲシテ若シク其本然ノ價直ノ上ニ保持セシメ  
タル政策ナリ穀律ニ原因スルカ故ナリ故ニ今日穀物ノ正真ナ  
ル價直ヲ知ラント欲セハ大豊歲ニシテ此レ時ノ律令モ為メニ  
其効カヲ失ヒ小麦ノ價直下落シテ其本然ノ價直ヲ表シタル年  
ヲ以テ算セサルベカラズ左ニ掲載スル所ノ三箇年ハ大豊歲ニ  
シテ又夕其價直ハ全國ノ平均價直ニシテ一市場ノ價直ニアラ  
ザルナリ

小麦ノ價直

大

歳

目

年紀

一千八百三十四年  
 一千八百三十五年  
 一千八百三十六年

合計

志	片
五	一
四	二
三	五
一	六

右合計一百三十五志六片ヲ以テ三箇年ニ割付レハ則チ一  
 トルニ付キ平均價直四十五志二片ナリ  
 此價直ヲ視レハ則チ殆ント一千七百九十二年ノ價直ト同様ナ  
 リ而シテ亦モ亦タ其當ニ然ルヘキヲ信スルナリ然ハ則チ一  
 七百九十二年ノ貨幣ハ其價直一千六百九十四年ノ貨幣ニ下ル  
 コト三分ノ一ニシテ今日ノ貨幣ト大抵其價直ヲ均シフス  
 一千六百九十四年ト一千七百九十三年トノ比較ハ亦タダ  
 シウツテ(英國)ケン(ト)列ノ要市(病院)ノ穀物價直表ニ據ラ之レヲ

徴スルヲ得ベシ

夫レ、ロ、ク、氏及ヒ自餘ノ説ニ據レハ一千六百九十四年代英國ノ  
 地稅ハ每歲僅々一千二百萬封度ナリ此ヲ以テ今日ノ地稅ニ比  
 較スルハ前段ノ所論ト大ニ其成果ヲ異ニスルニ似タリト雖  
 凡精密ニ當時ノ事實ヲ觀察スルハ其成果ヲ異ニスルニ似タ  
 ルモノハ全ク皮相層見ニシテ真理ニ至テハ少シモ差異アルヲ  
 ナキヲ知ルベキナリ何トナレハ則チ第一一千六百九十四年ノ  
 地稅ハ今日ノ地稅ト其概ル所ノ情況ヲ異ニスレハナリ當時貨  
 幣ノ利息ハ通例六分乃至八分ナリ而シテ貿易商業ノ利潤モ  
 亦タ此ノ金利ノ高度ニ準シテ大ナリレナリ諸商業ノ利此ノ如  
 ク夥シクシテ商人ノ益スル所夫レ斯ノ如ク多キヲ知ラハ人誰  
 カ重稅ヲ出シテ地ヲ借り耕耘ヲ事トスルモノアランヤ故ニ田  
 地ハ大ニ其價格ヲ落トレ遂ニ之レヲ借テ耕耘スルノ競争ヲ失

スルニ至レリ第二一千六百九十四年以還人口非常ニ繁殖シタ  
ルヨリ英國地稅上ニ及ボシタル影響ヲ觀察セサルベカラス右  
人口繁殖ノ為メニ以前ニ少シモ地稅ヲ收メサリシ<sub>公地</sub>ヲ耕耘  
シテ私有地トナシ以テ稅ヲ收ムルニ至リシモノ殆<sub>モ</sub>シト七百萬  
エ<sub>一</sub>タルナリ此ノ耕耘地タル平均一<sub>エ</sub>タルニ付キ二十志ノ  
價直ヲ有シタルベシト信スルナリ又タ國內都邑ノ増加シタル  
ヨリ從テ其近鄰土地ノ地稅ヲ騰貴セリ即チ其騰貴シタルヤ三  
倍四倍ノ甚シキニ至レリ是ノ故ニ余輩今マ此ノ如キ地稅騰貴  
ノ源由ニ加ルニ現今金利ノ廉ナルト人口非常ノ繁殖ヨリ生シ  
タル田地借耕ノ甚シキ競争ヲ以テスレハ則チ<sub>ロ</sub>ク氏ノ推算ス  
ル所ノ一千六百九十四年ノ地稅タル現今ノ地稅ニ比シテ其僅  
少ナルハ獨リ貨幣價直ノ差異アルニ歸因セサルヲ知ルベキナ  
リ然ハ則チ當今貨幣ノ價直ハ一千六百九十四年ノ貨幣ニ下ル

コト全ク三分ノ一ナリト雖<sub>モ</sub>此ノ點ヨリハ下ラサルベシト斷  
言スルヲ得ベシ然リ而レテ余輩今マ此ノ考察ヲ心中ニ銘記ス  
ル<sub>ハ</sub>進テ一千六百九十四年ヨリ現今ニ至ルマテ數十年間  
銀行紙幣發行ノ為メニ生シタル貨幣價直ノ大浮沈ノ動搖ト其  
大浮沈動搖ノ為ニ一大影響ノ社會ノ幸福上德義上ニ及ボシタ  
ル所以ヲ了解スルニ難カラサルヲ信スルナリ  
余輩ハ既ニ上文ニ於テ一千六百九十四年ト現今ノ貨幣價直ノ  
差異アル所以ヲ論究シタルカ故ニ今一千六百九十四年ノ貨幣  
ノ價直ハ今日ノ貨幣ノ價直ニ勝ルコト全ク三分ノ一ニシテ之  
レヲ他ノ言語ヲ以テ釋スレハ一千六百九十四年ノ二封度ヲ以  
テ買フヲ得ヘキ物品ハ今日三封度ヲ出スニ非サレハ買フヲ得  
ヘカラスト云フヲ心裏ニ記シ進テ銀行ノ設立ト其之レヲ設  
立シタル理由トヲ精密ニ開陳スベシ嗚呼英國當時ノ新政府若



シ非戦平和ヲ以テ國是ト爲サハ而シテ賢明ナル志士ノ非戦論  
ニ字戾シテ兵ヲ外國ニ出シ本國ヲシテ其直接ノ關係ヲ有セサ  
ル外國戦争ニ干與セシムルヲナクシハ豈ニ銀行ノ如キ貨幣ノ  
價直ヲ變化スベキ政畧ヲ爲スヲ要センヤ然リト雖此ノ如キ  
非戦平和ハ當時政府ノ國是ニ非サリシナリ抑モ王朝ノ一度ニ  
更迭シテ和蘭ノ統領オーレンジ侯ナルウヰリアムノ王位ニ即キ  
シヨリ歐列戦争ニ干與スルノ避ク可カラザル情勢ニ至レリ刺  
ヘ政府ノ如キハ該戦争ト其戦争ヨリ生セシ負債ヲ以テ新政府  
ノ良友ヨリ致ス所ノ僥倖(天賜)ナリト思考セシハ蓋シ疑ヲ容サ  
ルナリ夫レ其良友ナルモハ此ノ時ニ當テ戦争ト負債ヲ以テ  
富者ヲ政府ニ結納シ百事ノ新緒ヲ確定維持スルノ一媒ムナリ  
ト信セシ人ナルヘシ然リ而メ當時ノ政府ハ軍費及ヒ其募集シ  
タル國債ノ利息ヲ支辨スルニ其收税ヲ増加セザルヲ得ス然レ

氏又夕之レヲ増加シテ人民ノ不平ヲ惹起スルナカラシメレニ  
ハ銀行ヲ設立シ紙幣ヲ發行シ之レヲ以テ其税ヲ收メシムルノ  
外他ニ術ナキヲ悟テ終ニ此ノ政策ヲ實行セリ夫レ此ノ時ニ當  
テ此ノ如キ新費用ヲ支辨セシカ爲メ強テ貨幣ヲ以テ收税ヲ増  
加セシト欲セハ非帝ノ無理壓制ニ涉タルコトアルヘシ是レ當時  
新政府ノ如キ制度未タ確定セズ民心未タ歸一セサル迄秋  
ニ於テハ試ニ能ハザルノ政畧タルヤ明ラカナリ然ルニ當時英  
國ノ敵タル佛蘭西ノ如キハ此ノ政畧(按ニ貨幣收税)ノ先峽タル  
ヲ察スル能ハザリシ故乎將ク之レヲ察スルアルモ懼ルニ足  
ラストセシ故乎此ノ政畧ヲ實行シタリシガ後テ果シテ其禍ニ  
係レリ蓋シ此ノ時限ニ當テ佛王路易十四世兵ヲ外國ニ出シ軍  
旅ノ久シキ其軍費ト國債ニ由テ貨幣ノ爲メニ無理壓制ノ課税  
ヲ爲セリ是レ則チ人民不滿ノ原由ナリ其不滿タルヤ軍費ト負

大 歳 省

債ノ増加スルニ從テ益々累積スルノ極一十年ヲ経テ後テ終ニ  
紀綱壞裂シ王位ヲ覆ハシ教會ヲ仆シ貴族ヲ廢シ全ク佛國社會  
ノ體面ヲ變化セリ其状恰モ無形ノ地震アリテ然ラシムルモノ  
、如シ而シテ當時佛國ノ通貨ハ皆テ貨幣ナリシ一千七百八十  
九年佛國大蔵卿ニイカル氏ノ計算スル所ニ由レハ其金額大約  
九千万封度ナリ而シテ佛國政府其人民ニ課スル收税ノ歲額(此  
内無論王領地地稅等ヲ除ク)ハ右通貨金額ノ四知ノ一ニ越ヘザ  
ルベシト雖氏紙幣ノ補助ヲ籍ラス獨リ貨幣ヲ以テ收ムル片ハ  
則チ其無理壓制復タ甚シ是ヲ以テ終ニ政府活機ノ運動ヲ停止  
シ從テ大變乱ヲ喚起スルニ至レリ然リト雖氏英國ニ於テハ幸  
ニ當時新主ウリアム及ヒ諸官吏等ノ其禍害アルベキヲ前知ス  
ルノ明アリシカ故ニ銀行ヲ設立シ紙幣ヲ發行シ以テ其政府ヲ  
維持スルヲ得タリ蓋シ之レカ為メ無期國債ヲ募集スルヲ得タ

リレハ勿論又夕々々國債ノ利息ヲ支辨スルニ銀行紙幣ヲ用ヒ  
タルカ故ニ強テ巨額ノ金銀ヲ流通上ニ供給セサルヲ得サルヨ  
リ起ルヘキ無理壓制課税ヲ用ヒスニテ止ミタリ  
余輩ハ今マ國立銀行事業ノ詳細ヲ論陳スヘキ時ニ着到セリト  
雖氏之レハ聞陳スルニ先シテ余輩ノ注意ヲ要スルモノハ抑モ  
該事業タルヤ其初メ議院ニ於テ公明公議ノ決議ヲ以テ設立シ  
タルニアラステ概シテ云ヘハ畢竟金錢ヲ募集スルノミノ賤  
劣ナル法案ニ過サリシナリ而シテ其佛國ト交戦ノ費用支辨ノ  
為メ百五十万封度ヲ政府ハ貸與スル人々ニ利益ヲ得セシメ且  
ツ其人々ニ與ヘシ相嘗ノ報酬ヲ保庇センカ為メ目的ヲ以テノ  
ニ獨リ許可シタル政畧ニ過キサリシナリ豈ニ奇變ノ政畧ニ非  
サランヤ即チ議院ノ議決シタル法令ノ條目ニ此ノ法令ニ從テ  
若シ一百二十万封度ヲ政府ハ申込ム人ハ英國銀行ノ頭取及ヒ

英國銀行ノ頭取及ヒ

仲間ノ名稱ニテ一會社ヲ組織スルヲ得バシ又ノ殘額三十万封  
度モ亦タ募集ヲ要セリ然レ氏此ノ三十万封度ノ債主ニハ政府  
ヨリ一代ニ代乃至三代間年酬金ヲ賦與スヘシ新銀行社負ハ開  
業免狀ヲ得ルトキハ其報酬トシテ申込金ノ全額一百二十万封  
度ヲ八分ノ年利ニテ政府ニ貸渡スヘシ而シテ政府ハ此ノ年利  
八分ノ外ニ手数料トシテ年々四千封度ヲ該銀行ニ與フヘシト  
約セリ即チ一百二十万封度ノ八分ハ九万六千封度ナルカ故ニ  
手数料四千封度ヲ合シテ年々十萬封度ヲ政府ヨリ該銀行ニ與  
ハ千五百五十万封度ヲ借入ル、トセリ是レ則チ當時銀行ヲ  
設立スルニ當テ布告シタル條目ナリシカ十月ヲ出スレテ該金  
額申込簿記名満負セリ而ノ一千六百九十四年七月二十七日ヲ  
以テ政府ヨリ開業免狀ヲ下附シタリ是レ則チ英國ニ於テ銀行  
開業免許ノ權與ナリ其時ノ頭取ハ「ト」爵ノ「ジョ」ホルボレ氏

ニシテ銀行設立ノ議者ナル「ウ」リアマムパテルソン氏モ其支配  
人ノ一ニ居レリ  
右ニ開陳シタル所ニ由テ觀ルハ則チ當時一銀行ノ設立ト紙  
幣ノ發行ハ取モ直サス國債ノ發端ナリ是レヨリ先キ既ニ政府  
ノ拂身金及ヒ數代ノ間ニ償還スヘキ有期年酬金ナルモノアリ  
ト雖モ其純然國債ト稱スヘキモノハ今般ノ募集金ヲ以テ第一  
トス蓋シ此ノ債タル償還ノ為ニ用意金ヲ為スヲナク又タ其用  
意ノ所存モナクシテ唯タ利息ノミヲ備フルカ故ナリ然ハ則チ  
右ノ如ク銀行立テ而シテ國債初テ生シ國債初テ生シテ遂ニ其  
種子ヲ遺セリ然リ而シテ其一種子ヨリ遂ニ數千方ヲ化生スル  
蔓延ノ神速ナルヲ見ルヘシ夫レ有用ノ草木ト雖モ園丁ノ決シ  
テ之レヲ園中ニ植ヘザルモノアリ何トナレハ一度コレヲ園中  
ニ入ル、中ハ其必ラス全地ニ蔓延シ之ヲ鋤絶セント欲スルモ

大義

得ハカヲサルニ至ルヘキカ故ナリ彼ノ國債ナルモノハ即チ此  
ノ草木ト其性質ヲ同シフス若シ國債ヲシテ一度國土ニ其根ヲ  
下サシムルハ必ラス其蔓延ノ勢ヒ既ニ全國土ヲ空之セシム  
ルニ至ラサレハ止マザルベシ故ニ初メ此ノ國債ノ募集ノ方策  
ヲ建議シタルハ當テ之レニ抗論セシモノナキニアラヌ即チ  
當時既ニ數多ノ識者アリテ夫ノ銀行事業タルヤ取モ直サス政  
府其債ヲ募集スルノ器具ニシテ為メニ必ラス射利者高利貸者  
ヲ生シ大ニ國民ノ徳教ヲ敗壞スルニ至ルヘキコトヲ痛論セリ  
然レニ當時ノ主治者卓識ノ人ト雖モ猶ホ且ツ其陝害ヲ悟ル能  
ハスレテ此ノ識者ノ異論ヲ以テ黨派ノ爭鬪ナリト見做シ之レ  
ヲ顧ニス多年ノ後チ若シク其惡果ヲ顯ハスニ至テ初メ覺悟シ  
タルハ豈ニ慨歎ニ勝ユベケンヤ夫レ政府初テ國債ノ實例ヲ置  
キニヨリ以テ未續々其例ヲ踏ムモノアリ此ノ國債ノ後チ四年ヲ

出スレテ(以前ヨリ既ニ一會社ヲ組織シタル)東印度ノ商人政府  
ニ請テ一免狀ヲ受領シ種々ノ特權ヲ得テ其報酬トシテ本末ノ  
銀行債ト同様ノ利息ヲ以テニ百萬封度ヲ政府ニ貸渡セリ此ノ  
後又ニ右ニ均シキ國債多ク起リシト雖モ今マ之レヲ後章ニ讓  
リ此ノ處ニ於テハ其設立ヨリ「ウヰリアム」王統治ノ終末ニ至ル迄  
ノ英國銀行事業ヲ簡明ニ陳述シ以テ一千七百二年ニ至ル迄  
リアム王生存間ノ國債ノ増進ヲ明辨セサルベカラス  
抑モ右銀行ノ開業シタル時ニ當テ其為換手形ノ割引ハ合法利  
息ノ極點ニシテ外國為換手形ト内國為換手形トヲ問ハス一般  
ニ六分ノ割引ヲ為セリ而シテ數日ノ實驗ヲ經タルニ人此ノ高  
度ノ割引ニテハ為換手形ヲ交換スルモノ少ナケレハ從テ營業  
盛ナラサルカ故ニ終ニ外國手形ノ割引ヲ減シテ四分五厘トナ  
セリ又タ一千六百九十五年一月ニ至リ尚ホ營業ヲ皇張センカ

為メニ左ノ一方策ヲ制定セリ即チ内國為換手形ノ割引ヲ減シ  
テ四分五厘トナシ外國為換手形ハ短期手形ヲ除ク外ハ再ヒ其  
割引ヲ六分トナセリ然リト雖モ此ノ銀行ハ主顧トナリ常ニ此  
ノ銀行ト取引スル人々ニハ外國為換手形ノ割引ヲ減シテ半額  
即チ三分トナシ以テ其徳ニ酬ユルノ挑餌トセリ是レ又ク當時  
未曾有ノ低度ノ割引ナリ此ノ如ク割引ノ減度ヲナスモ尚ホ營  
業ノ盛ナラサルヲ以テ同年五月ニ至リ頭取及ヒ仲買ハ種々ノ  
方策ヲ施セリ即チ一時短期手形ハ皆チ三分ノ新割引ヲ以テ交  
換セリ然リト雖モ尚ホ充分ナラサレハ支配人一同協議シテ終  
ニ金銀鉛錫銅鋼鉄及ヒ鉄ヲ抵當ニ取り年利四分ニテ其紙幣ヲ  
貸スヘキコトヲ公告セリ  
右ニ陳述シタル事實ニ由テ觀ルハ則チ銀行紙幣ハ其發行ノ  
初ニ於テ既ニ世人之レヲ疑惑シ信用ヲ得ル能ハサリシヤ明カ

ナリ其後十二年ヲ經テ新政府銀行共ニ非常ノ險害ニ遭遇シ殆  
シト其信用ヲ天下ニ失ヘリ一千六百八十八年大變亂ノ間ニ猶  
太人通貨ヲ摩耗剪截シタルヨリ一千六百九十七年ニ至リ佛國  
トノ交戦未タ終ラサルニ貨幣既ニ其形容ヲ失ヒ殆ント金銀ノ  
小片ヲ異テラサルニ至リシヲ以テ更ニ貨幣改鑄ノ避クマカラ  
サル情勢ニ及ベリ既ニ之レヲ新鑄シタルヨリ非常ノ困難ヲ財  
政上ニ未タシ銀行政府共ニ自己ヲ維持スル方策ニ困メリ即チ  
貨幣ヲ改鑄スルヤ否ヤ此ノ新貨幣ト紙幣ヲ交換センカ為メ銀  
行ハ取り替ケニ未ルモノ極テ多シ而シテ支配人ハ可成其交換  
ヲ免カレンカ為メ銀行ト常ニ取引スル人ニ依頼シテ僅カ五封  
度ノ金額ト雖モ其取引アルモノハハ差引センコトヲ乞フタリ又  
夕其紙幣ノ流通高ヲ減少センカ為メ當時ノ豪商ニ依頼シ一時  
紙幣ノ代リニ六分利息付ノ手形ヲ渡セリ又夕或ハ云フ當時銀

行支配人ハ其交換請求ノ甚シキ困弊ノ極其時日ヲ遷延セシカ  
為ノ新鑄造<sup>シ</sup>キスペインス<sup>ル</sup>半志ノ價格ナリ<sup>ノ</sup>細貨幣ヲ以テ交換  
セシ<sup>テ</sup>アリト政府モ亦ク殆ント銀行ト均シキ困難ニ遭遇シ其  
信用ヲ人民ニ失スルノ甚シキ殆ント覆滅ノ情況ヲ顯セリ政府  
ノ信ヲ失タレハ銀行モ亦ク從テ信ヲ失スルハ當然ノ理ナリ何  
トナレハ則チ該銀行ハ固ヨリ新政府其財政ヲ維持スルノ器具  
ナルカ故ナリ即チ當時政府及ヒ銀行ノ信ヲ世間ニ失シタルノ  
甚シキヤ終ニ租稅院木符券及ヒ租稅院ノ當タル手形ハ六割ノ  
割引<sup>ヲ</sup>為スニアラサレハ世間取引スルモノナシ然ルニ銀行紙  
幣ハ尚ホ二割ノ割引ニテ通用セリ俚諺ニ云ク最大ノ果斷ハ即  
チ最大ノ謹慎ナリト是レ其困難ノ時ニ當テ銀行ノ施シタル方  
策ノ成果ニ由テ其真ニ然ルヘキヲ徵スルニ足ルナリ當時銀行  
ハ租稅院ニ比スレハ信ヲ世間ニ保持スルコト多キヲ以テ銀行

ノ頭取及ヒ<sup>ニ</sup>社員ハ非常ノ憤發ヲ以テ非常ノ方策ヲ決行セリ  
即チ其資本金ヲ増加スル為メ一百万封度ノ募集ヲ公布シ人ヲ  
シテ容易ニ其募集ニ應セシメカ<sup>ニ</sup>為メ其募集金ノ五分ノ四ハ下  
落シタル租稅院本符券及ヒ租稅院當<sup>テ</sup>ノ手形ヲ以テ收メ残ル  
五分ノ一ハ其固有ノ銀行紙幣ニテ募集スベシト公布セリ是レ  
實ニ當時財政ノ困難ヲ回復スル妙策ナルヲ見ル何トナレハ則  
チ右ノ一百万封度ノ増加高ハ立地ニ集マリ所謂ル骰子ノ一投  
轉ニテ將ニ倒レントスル租稅院ヲ扶持シ其拂ヒ渡サ<sup>ル</sup>ルヲ得  
サル金額ハ一百万封度ノ負債ヲ免カレシメ該一百万封度ノ新株  
主ヲシテカヲ極メテ銀行ヲ維持セサルベカラサルノ情況ニ居  
ラシメタリ此ノ時ニ當リ異論者アリテ銀行ヲ保存スルノ害毒  
ヲ切論シ殊ニ旧王黨及ヒ<sup>ニ</sup>ジャコビ<sup>ト</sup>黨ノ如キハ誹謗嘲弄ヲ極メ  
テ之レヲ爭ヒシト雖<sup>モ</sup>此ノ異論ニ拘ハラス到底能ク自カラ維

持保存スルヲ得タリ夫レ紙幣發行ノ事業タルヤ終テ甚ク危岌  
ナリト雖氏時アリテ意外ノ幸運ニ遭遇シ世人ヲシテ彼輩ハ俚  
諺ニ所謂ル九猫ノ生命ヲ有スル乎ト怪シムルヲアリ按ニ九  
猫ノ生命ヲ有スルハ其高運アルヲ云フナラシ是レ則チ紙幣發  
行ノ事業ニ於テ初テ遭遇シタル困難ニシテ其成功ヲ得タルハ  
實ニ不可思議ノ氣運ト云ハサルヲ得ス此ノ如ク僥倖ノ成功ヲ  
得タルヨリ從テ其反動カヲ生シ當時租稅院長官モンタギウ氏  
後々英國ヨーク州ノ都邑ハリファックスノ都督ニ任スハ其機會ニ  
乘リ巧ニ政府ト銀行トノ財務ヲ挽回スルノ政策ヲ施セリ即  
チ新ニ五年間ノ銀行營業免狀ヲ得テ其積立資本金及ヒ其利潤  
ニ課スハキ稅ヲ免シタリ又夕法律ニ由テ其銀行紙幣及ヒ其證  
印ヲ廢造スルモノハ死罪ニ處スヘキコトニ足メラレタリ此ノ  
如キ政策ヲ施シタルカ故ニ銀行ノ信用一層鞏固ノ位置ニ至レ

リ此ニ於テ租稅院長官ハ租稅院手形此ノ時ヨリ今日ニ至ルマ  
テ世間ニ流布スト稱スル新証券ノ發行ヲ為セリ此レ時ノ手形  
タルヤ取モ直サス國帑窮乏ノ時ニ當テ政府ノ發行セシ有期及  
ヒ有利息ノ約束手形ニ外ナラサルモノナリ而シテ銀行ハ右等  
ノ手形ヲ擔當シテ其運用支出ヲ為シ又夕其交換期限ニ至レハ  
其交換ヲ保助スヘキコトヲ約定セリ故ニ該手形ハ則チ彼ノ少し  
以前ニ殆ント全ク信ヲ世間ニ失シ政府ト共ニ壞滅ニ及ハント  
シタル旧租稅院木券及ヒ租稅院當テノ手形ト其趣キヲ同シ  
クシテ此カ代用トナレリ  
右ニ開陳シタル情勢ニ由リ今ヤ英國ニ於テ初テ租稅院手形ト  
稱スル紙幣及ヒ銀行紙幣ノ流通ヲシテ確乎トシテ奪フ可カラ  
サルノ位置ニ居ラシメタリ此ノ新政策タルヤ後未非帝ニ毒惡  
ノ成果ヲ世間ニ流スヘシト預定サレタレ氏終ニ之レヲ維持ス

ルヲ得タルモノハ則チ政府ト銀行ト連合一致シテ其信用ヲ結  
合シテ政府信ヲ失スレハ銀行モ從テ亦夕信ヲ失シ銀行信ヲ失  
レハ政府モ亦信ヲ失スルカ故ニ互ニ相保翼扶持スルノ關係ア  
ルニ原因スルナリ此ノ關係タルヤ万代無窮ニ永續シ其間ニ多  
クノ異見者アツテ此ノ一致結合ヲ分離セント試ミタルモノナ  
キニシモアラ<sup>レ</sup>レ<sup>ハ</sup>猶ホ今日ニ永存スルヲ見ル但シ其間夕銀  
行ノ權政府ニ勝サリ或ハ政府ノ權銀行ニ勝サルカ如キコアリ  
然リ而シテ其利害ヲ同シフスルヤ政府ノ主治者及ヒ銀行ノ頭  
取中其利害ヲ分離セント企テシモノアリト雖モ其終ニ能ハサ  
リシヲ見ルナリ故ニ其安危得失ノ相ヒ連絡スルハ其安危得失  
ノ如何ヲ論セヌ永遠無窮決シテ分離セザルベシト確信スルナ  
リ<sup>ハ</sup>此ノ如ク論シ来レハ讀者ハ必ラス銀行紙幣ナルモノハ此ノ時

ヲ以テ濫觴トシテ此ノ時ヨリ以前ハ決シテ銀行紙幣ノ如キモ  
ノ世間ニ通用セシコトアラスト思フベケレ<sup>ハ</sup>實際其果シテ然ラ  
サルヲ知ル是レヨリ先<sup>キ</sup>金<sup>匠</sup>ノ銀行ノ如キ事業ヲ為セシ片ニ  
當テ人々ノ<sup>貨幣</sup>幣ヲ以テ金匠ニ預ケ其代リニ請取リタル金匠ノ  
請取票ハ時トシテ便利ノ為ニ銀行紙幣ノ如ク世間ニ通用セシ  
コトアリ是レ上ニ開陳シタル紙幣ニ甚ク類似スルモノト云フヘ  
シ然リト雖モ該請取票ハ僅々商人ノ間ニ取引スルノミナ<sup>ハ</sup>  
財政史ニ於テハ或ハ記載スベシト雖モ復タ論スルニ足ラサル  
ノ事實ト云フヘシ  
余ハ今マウ<sup>リ</sup>アム三世統治ノ間ニ募集シタル<sup>定債</sup>及ヒ未定債  
ノ情況ヲ陳述シ以テ此章ノ句ヲ結バント欲ス夫レ<sup>ウ</sup>リ<sup>ア</sup>ム三  
世統治ノ世タルヤ無智無學ノ執迷者ハ以テ不朽ノ昭代ト稱揚  
セシト雖モ若シ樹木ノ其結ンタル果實ニ由リテ其性ヲ知ルヲ

大  
歳  
留



得ヘクハ則チ此ノ世ヲ評シテ英國古今未曾有ノ濁世ト云ハサ  
ルヲ得ハ其故何トナレハ則チ諛時代ハ後未我カ國人ノ幸福ヲ  
残毒スル政策ノ種子ヲ蒔キ而シテ英國ヲシテ其隆盛ヲ衰頽シ  
其毒惡ノ増進スルニ從テ大ニ富實ノ平均ヲ變動シテ一版ノ安  
寧ヲ遮却已終ニ我カ社會ヲ率テ氣力ナク窮乏ナル苦役奴隸ノ  
國ト爲シ而シテ獨リ有土蓄財ノ貴ノニ政府ニ立テ暴威ヲ震ヒ  
シカ故ニ殆ント一百五十年間犯罪訴訟止ム時ナク下民皆ナ困  
弊シ殆ント其所ヲ安スル能ハサルニ至レハナリ然リト雖氏下  
民ノ此ノ如ク困弊ノ甚シキニ至ルハ又ク當時政府黨ノ安先ト  
舊制度ニシテ諛黨ノ尚ホ維持保存スルモノ、存亡ニ關スルヤ  
明テカナリ而シテ其禍害ノ基スル所ハ則チウヰリアム王統治ノ時  
ニ定メタル財政ノ一弊ニ外ナラサルナリ然リ而シテ余輩ノ今  
此ノ處ニ紙幣ヲ發行シテヨリ國債ノ年々増進シタル計算ヲ詳

説スルハ固ヨリ財政史編述ノ本旨ニアラス此ノ増進ヲ精細ヲ  
知ラント欲セハ自カラ律令書及ヒ律令書ヨリ編纂シタル年代  
記ナルモノアレハ之レヲ參觀スベシ此ノ如キ事實ヲ喋々詳論  
スルハ讀者ノ益ニアラス又ク余カ好ム所ニ非サルカ故ニ唯タ  
數十年間ノ増進ヲ概陳スレハ十分ナリト信スルナリ何トナレ  
ハ則チ其増進ニ從テ國ノ財政上ニ發生スル許多ノ災害ヲ觀レ  
ハ則チ國債ノ毒惡猛烈ナルヲ徵スルニ足ルカ故ナリ  
左ニ掲載スル國債ノ計算ハカ、ジョン、シンクレ、氏若ス所ノ歲  
入史ヨリ採萃スルモノナリ此ノ歲入史タルヤ其記者智見ノ淺  
深ニ至テハ世間或ハ之レヲ議スルモノアリト雖氏共著述ノ精  
密確實ナルハ疑ヲ入レサルナリ

一千七百一年十二月三十一日ニ於ル國債有利無期債

テール、ファンデ、ト、デ、ツ、ツ  
ピアッング、イ、ラ、レ、ス、ト

大蔵省

第一		元金		利息	
英國銀行初起 ノ積立資本金	一、〇〇〇、〇〇〇	封度志片	〇	〇	〇
第二			九六、〇〇〇	〇	〇
東印度會社初起 ノ積立資本金	二、〇〇〇、〇〇〇		一六〇、〇〇〇	〇	〇
第三					
チャールズ二世ノ募集 シタル銀行ノ債	六六四、二六三		二九五、八五五		五七
合計	三、八六四、二六三		二九五、八五五		一五七
償還目的ヲ以テ若干ノ 賦税ニ突テ年俸及債 元金利息共ニ辨償 ノ引當ナキ債	九、八六一、〇四七		八五三、一二二		一八三
國債ノ總計	一六、三九四、七〇二		一六一、九六三		一〇六
右ノ總計ナルカ故ニチャールズ二世時代ノ租税院カ金匠及七豪 商ヨリ借入タル債ヲ除テ七箇年ノ内ニ一千六萬封度ノ債ヲ為	一、三一九、四七一		四、九四一		四三

此ノ債額タルヤ今日ヨリ觀ルハ些少ナルカ如シト雖也  
 當時ヨリ今日ニ至ルマニ毒ヲ英國ニ流シタルノ甚シキヤ疫病  
 ノ災害ニ異ナラサルヲ知ルナリ抑モチャールズ二世ノ債ハ諸商  
 人輩カ共確實ナルヲ信シテ租税院ニ預ケ置キタリシ金額ナリ  
 然レモチャールズ二世無道ニシテ其貨幣ノ欠乏ニ窘迫スルニ當  
 リ忽チ之レヲ強奪セリ而シテ終ニ國債ノ一部分トナレリ嗚呼  
 暴君恣ニ人民ノ預ケ金ヲ奪テ之レヲ濫用シタルカ故ニ英國ノ  
 窮民ハ此ノ放肆ナル賊王獨夫ノ為ニ殆ント二百年間其勞役ノ  
 結果即チ膏血ヲ以テ其利息ヲ辨償シタルハ豈ニ痛歎ノ至リナ  
 ラスヤ蓋シ賊王獨夫ノ強奪ハ尋常ノ強奪ニ過ルヲ遠矣

第四章終

六 裁 省

第五章

女皇「アン」統治ノ理財史○英國銀行ノ進歩○「ロルド」  
 ボリンブロー「グ」氏ノ英國銀行ノ体裁及其差響ノ辨  
 ○王位相續ノ戦争○女皇「アン」死去ノ時ニ於ケル國  
 債○「ジョージ」一世統治ノ財政史○南海ノ泡沫○「ジョー  
 ジ」一世死去ノ時ニ於ケル國債「ジョージ」二世統治ノ財  
 政史○「ウ」ルポール「ル」氏宰相ニ任ヌ「カ」トスキ「ン」戦争並  
 ニ其軍費○佛國戦争○償債資金初度ノ積立○右資  
 金積立ニ付テ「ヒューム」氏ノ異論○「ジョージ」二世ノ死去  
 余輩ハ前章ニ於テ紙幣及ニ國債政畧ノ組成ヨリ始テ其  
 實際ノ經驗ヲ試ミタル事實ヲ説明セリ譬ヘハ新船ヲ製  
 造シ之レヲ海中ニ下シ其航海ノ初度ニ於テ恙カナク風

載  
 第

濤ノ險ヲ凌キ自餘暗礁等數多ノ厄ヲ免カレタルカ如シ  
蓋シ紙幣及ニ國債ノ利息支辨法ヲ實施スル時ニ當テ人  
民ノ大半ハ固ヨリ該政畧ノ為ニ將來ニ生ヌヘク得失ヲ  
知ラサレハ敢テ之レニ抗スルモノナシ適ク識者之レニ  
抗スルアルモ終ニ其意見ヲ貫ク能ハス而シテ新政府ハ  
固ヨリ右ノ如キ政策ニ據ラザレバ自カラ維持スル能ハ  
サルヲ以テカラ其實行ニ盡シタルカ故ニ該政畧ハ女皇  
アン治世ノ初年ニ至テ既ニ基礎確定シテ復タ撼カスベ  
カラサルノ財政トナレリ夫レ此時ニ於テ人民既ニ権力  
ヲ失スルノ甚シキ設令其政策ノ毒惡不正ヲ辨論スルノ  
見識アルモ當時猶ホ且ツ實際ニ此レニ論抗スルノ権力  
ヲ有セサリシヤ明ラカナリ何ヲ以テカ其権力ヲ有セサ  
ルヲ知ルヤ夫レ一千六百八十八年ノ變革タルヤ實ニ英

國衆庶ハ之レニ關與セズシテ民黨改革黨ヲ助成セシハ  
二三ノ宗旨偏執者ト共和政黨トノ外貴族等ノミ之レヲ  
助成セシナリ但シ貴族等ノ大ニ此變革ニ關與セシハ其  
掠奪地ヲ其地ノ故主ニ復セテレシトテ懼レタル心ヨリ  
出タルヲ知ルナリ故ニ衆庶ノ少シクカヲ添ヘント欲ス  
ルモ之レヲ擯斥シ其扶助ヲ藉ルヲ潔トセサリシナルヘ  
シ適クビル、オフ、ライトノ議定ニ由テ得タル人民ノ僅々  
タル特権モ忽チ無実ノ口実ヲ構造シテ之レヲ剝奪セラ  
ルニ至レリ而シテ每七年議負改撰條例ヲ議定セリ抑モ  
此新法ヲ制定シタルヨリ惡弊ヲ釀成シ賄賂公行シ撰舉  
被撰皆私ニ出テ議院内外復タ廉恥ノ何物タルヲ知ラサ  
ルニ至レリ此レ今日ノ如ク人情澆季ニ至リ德義地ニ委  
スルノ時ヨリ觀ルモ猶ホ人ヲシテ痛歎慷慨ニ勝ヘサラ

シム況ンヤ當時ニ於テオヤ然リ而シテ既ニ當時ニ在テ  
モ其論黨ノ中ニ夫ノ口ヲ開ケハ必ラス撰舉代議ノ公明  
ヲ主張スル黨ニシテ自カラ此ノ如キ惡弊ニ沈<sup>ル</sup>シタル  
ハ名実齟齬シテ百世ノ議論ヲ恐レタルカ故ニ強テ之レ  
ヲ秘匿ヤントセシモノアリシカ氏其惡弊タルヤ歷々ト  
シテ固ヨリ之レヲ百世ニ蔽フヘカラサルナリ  
女皇アン統治ノ間ニ於テ銀行ハ益々其信用ヲ堅フシ又  
々其資本金ヲ増加セリ其信用ト資金ノ増進スルニ從テ  
銀行ヨリ政府ヘ貸附スルト益多シ政府ハ其債金ノ報償  
トシテ銀行ノ特權ヲ擴充シ其營業免許ヲ改新セリ先年  
財政危急ノ時ニ際シ臨時其危急ヲ救済スル權謀ヲ以テ  
彼ノ既ニ世信ヲ失シタル租稅院手形及租稅院當テノ  
手形ニテ募集セシ一百万封度ハ一千七百零七年中ニ其

債主ニ辨償セリ銀行此償還ヲ為シタルヨリ又々一層其  
信用ヲ増セシニ又々其營業免狀ヲ改新シ更ニ一種ノ特  
權ヲ得タルヲ以テ益其世間ノ信用ヲ堅牢ナラシムルニ  
至レリ其免狀タルヤ條例ニ據テ英國銀行ノ外ハ株主六  
人ニ越ユル銀行ヲ設立スルヲ禁シ該英國銀行ノ頭取及  
ト社負ヲシテ其營業上更ニ獨專ノ利ヲ得セシメタリ何  
トカレハ則テ僅カ六人以下ノ株主ニテ銀行ヲ開業スル  
ハ當時固ヨリ為ス能ハサルコトナルニ今一般ニ此禁ヲ  
令シ獨リ之レヲ英國銀行ニ許可セシハ即テ他ニ銀行ノ  
設立ヲ禁制シタルモノト云ベシ扱テ銀行ハ此ハ如キ新  
特權ヲ得タルカ故ニ其報酬トシテ無利息ニテ四十万封  
度ヲ政府ヘ貸附シ且ツ其所有セル租稅院手形ヲ其利息  
ト共ニ一十七万五千零二十七封度十七志十片半ヲ

裁

消却セリ然リ而シテ銀行ハ此ノ如キ約束ヲ政府ト定メ  
タルヨリ其用度ニ供センカ為メ其資本ヲ増額セサルヲ  
得ナル情勢ニ至レリ而メ呼高五百五十万封度ハ三回申  
込ノ方法ニ由テ募集シ其資本ヲ増殖セリ是レ實ニ巨大  
ノ金額ナリ而シテ其大半ハ常ノ如ク政府ノ會計ヲ維持  
スルニ使用スルモノナリ該銀行ハ尚ホ政府ノ免状ヲ得  
テ其特権ヲ擴充センカ為ニ租稅院手形ヲ以テ其元來ノ  
資本金全額ニ均シキ金額ヲ世間ニ流通セシムヘキコトヲ  
約シ且ツ又タ其手許ニ有スル所ノ租稅院手形二百萬封  
度ヲ消却スヘキコトヲ約セリ此ニ於テ政府ハ其報酬ニ  
將來ノ國債取扱ノ職事ヲ以テ銀行ニ委任セリ是レ實際  
ニ於テ租稅院此時迄管掌ヤシ事務ヲ舉テ悉ク銀行へ從  
シタルモノニシテ以來永久該銀行ノ管掌スル所トナレ

リ古ニ開陳シタルカ如ク政府公債ノ頻リニ増進スル時  
ニ當テ女皇「アン」條馬トシテ崩セリ女皇ノ崩シタルヤ王  
黨モ亦タ其権力ヲ回復スルノ希望ヲ失セリ女皇ノ位ニ  
即キシヨリ王黨須臾ノ間稍権力ヲ得シト雖モ未タ全ク  
其基礎ヲ確定シ其持論ヲ決行スルニ及ハスシテ其依頼  
スル所ヲ失セシヲ以テ終ニ其目的ヲ達スル能ハスシテ  
止マリ然リト雖モ當時王黨中有名ノ紳士アリテ強ク始  
終毒惡ナル該政策ニ抗論シタルハ疑ヲ容レサルナリ其  
紳士ノ巨擘ト稱スヘキ人ハ則チ「ヘンリー・シント・ジョー  
ン」  
「ロルド・ボリンガローク」氏是レナリ同氏其著ス所ノ書「  
タリス、オン、ゼ、ユリス、オブ、ヒストリ」ニ於テ左  
見テ論陳セラレタリ  
此時ニ當テ一十六百八十八年ヲ云フ世極テ卓識明察ノ

士ニ乏シクシテ歳入新法及ニ國債課集法ノ如キハ此後  
久シカラスシテ果シテ制定セサルヲ得サルノ場合ニ至  
リシモ此ヲ暫時ノ前ニ洞察スルモノナカリシ益シ右ニ  
方法ノ如キハ背理ノ處置ナリト雖モ其施行ノ久シキ終  
ニ撼カスヘカラサルニ至レリ又々年ヲ追テ王權旺盛シ  
國債ヲ起シ及ニ諸稅ヲ増殖シ為ニ自カラ人民一般ノ自  
由ハ減縮シ却テ昔日變革前ニモ及ハス設令真ノ危險ニ  
非サルモ其微弱ノ位置ニ落タルヲ覺悟セシ人ハ僅々指  
ヲ屈スルニ過キサリシナリ歎スヘキ哉蓋シ此毒惡ノ政  
畧ハウヰリアム王統治ノ初年ニ起リテ余輩ノ今日身自カ  
ラ之レニ遭遇シ猶ホ悚然止マサル所ノ災害悉ク既ニ當  
時ニ胚胎ヤリ而シテ其政畧タルヤ當時執權者ノ不學無  
術偶然過失等ニ出ツクニ非スシテ其有意ノ始計權謀ニ

出ツルモノナリ然リト雖モ當時ノ執權者モ齊シク良心  
ヲ有スルノ人類ナレハ好シテ毒惡ノ政畧ヲ自國ニ設置  
シ後世同胞ノ吾人ヲシテ其毒ニ中ラシメント企圖シタ  
ルニハ非ナルヘシ必ラスヤ目前ノ利欲ニ執著シテ其弊  
害ノ天下後世ニ及フヲ慮ラサルニ坐スルモノナラン夫  
レ新政府初テ政ヲ行ヒ人心ノ帰向未タ定マラサルノ時  
ニ當テ富庶ヲ懲憑シテ金錢ヲ政府ニ貸サシメ此等ト利  
害ヲ共ニシ以テ政令ニ服從セシムルノ策畧ハ或ハ之レ  
ヲ愛國ノ衷情ニ出ル國畧ト稱スヘシト雖モ該新規ノ金  
融所ヲ創成シ地主等ノ力ニ抗シ終ニ大會社ヲ建テ、倫  
敦府ニ於テ非常ノ勢力ヲ振フニ至リシハ之レニ黨派心  
ニ出ツル營利ノ私策ト云ハサルヲ得ス而シテ此不公平  
ノ方法ヲ創始セシ人ニシテ若シ其私心ナシトセハ此方

裁  
當

法ヲ維持進歩セシモノ、國債ヲ起シ紙幣ヲ發行シ諸種  
仲買ノ事業等ニ由テ夥多ノ財産ヲ蓄積スルノ機會ニ乘  
スルハ是レ果シテ其自利ノ私計タルヤ蓋シ疑ニ容レサ  
ルナリ、此輩自利ニ汲々トシテ自餘後世ヲ慮ハカルニ違  
アラサリシナリ今ヤ余輩其後世ニ生レ親シク其不公平  
ナル政畧ノ惡果ヲ嘗メ其辛辣ニ堪ヘサルモ其惡策ノ来  
タル日既ニ久シク今復々之レヲ如何トモスヘカラサル  
ナリ、夫レ苟モ自由ヲ尊ヒ權利ヲ主張スルノ人民ニシテ  
我國及ヒ其他各國ノ歴史ニ通曉シ右ノ如キ政策ノ利害  
得失ノ在ル所ヲ知ルアラハ必ラス國家ノ會計ト其會計  
事務取扱官吏叙任ノ權ヲ舉テ悉ク一君主ノ掌握ニ委シ  
テ之レヲ管掌セシムルカ如キ危險ヲ試ミサルヲ信スル  
ナリ何トナレハ則テ萬國古今ノ經驗ニ據ルニ君主獨リ

國家ノ會計權ヲ掌握スルハ必テス國民ノ志氣ヲ衰頹  
ス國民ノ志氣衰頹スルハ終ニ貴重ナル自由ノ失ヒヲ  
来タスニ至ルハ當然ノ理ナレハナリ、ボリンゲローク氏  
著書「スタデー、オフ、ヒストリ」第二章四十五葉ヲ參考ス  
ヘシ、  
右書ハ变革後未タ五十年ヲ經サルノ間ニ在テ一千七百  
三十五年頃ニ著ハシタルモノナリ而シテ余輩ハ今マ同  
氏及ヒ其他論者ノ説ク所ニ由テ以テ國民ノ城堡タル下  
院ハ當時既ニ自利卑劣ノ汚弊ヲ醸シ遂ニ大ニ其高尚ノ  
精神ヲ敗壞セシヲ徵スヘシ  
皇女「アン」統治ノ間大ニ浪費ヲ来タセシカ是レ又英國  
ノ為ニハ夫ノ女「毒」函「按ニ上古ノ女神「ジッペター」一函ヲ以  
テ其夫ニ與ヘリ其夫コレヲ開ヒテ無数ノ災害ヲ傳播流

裁  
當



出ヤリニ均シキ變革ヨリ胚胎シタル一大不幸ナリシ其  
浪費ハ蓋シ歐洲ニ於ケル國カ平均政界ノ後ヲ維持ヤン  
カ為ニ使用セシモノナリ抑モ此國カ平均ノ政界ハ寧リ  
アム王其生國和蘭ニ於ケル其世襲ノ權ヲ失ヤンコトヲ恐  
レテ工夫シタル政策タルヤ疑ヲ容レス蓋シ和蘭ニ在テ  
ハ其宗族代々諸州ノスタッドホルダ即チ部長ヲ世襲ス  
ル所ナリ然リ而シテ名ヲ國カ平均ニ藉テ以テ終ニ英國  
ヲ率マテ和蘭ノ盛衰ニ連累セシメタリ女皇アンノ位ニ  
即チ當テ既ニ所謂ル王位相續ノ戰爭ナル大乱ノ端ヲ  
開キタリ一千七百零一年英王ゼームス二世ノ死スルヤ  
其子アレクサンダー遁レテ佛國ニ在リシカ佛王路易十四  
世竊ニ之レヲ以テ英國王ト公告セリ是レ佛國ガリスウ  
ク按ニ和蘭一州ノ和約按ニ此和約ハ英國西班牙和蘭

日耳曼ノ諸邦一致シテ佛國ニ向テ取結タル條約ナリ而  
シテ佛王孫印シテ寧リアムヲ英王ノ位ニ即クヘシト決  
定ヤシ和約ナリヲ破テ英國ヲ凌辱シタルノ始メナリ此  
ニ於テ英國同盟諸國ト共ニ兵ヲ合ヤテ罪ヲ佛國ニ問フ  
ニ及ヘリ抑モ此連合ノ舉兵タルヤ名ハ古ノ凌辱ノ為ニ  
スト雖モ其實ハ佛王ノ曾テ其孫ピリッポヲ西班牙ノ王位  
ニ即チ以テ佛西兩國ノカヲ結合強大ナラシメントノ私  
圖アリシカ故ニ之レヲ評制ヤントシタルニ出タルヤ明  
ラカナリ初メ右佛王私圖アルコト英國ニ聞エシマ世上  
ニ於テハ西人固ヨリ既ニ佛人ト合從スルコトヲ欲ヤサル  
カ故ニ今日決シテ人氣ノ一致和合スル能ハサルヘケレ  
ハ其兩國合一ノ事ハ言フヘクシテ行フヘカラサルニ似  
タリトノ説ヲ唱ナフルモノ多シト雖モ政府当局者ハ恐

裁  
省

惶自カラ安ニスル能ハサリシナリ然リ而シテ終ニ英蘭  
及ヒ日耳曼ノ一二聯邦互ニ同盟連衡ヲ約定シマルボロ  
「侯及ヒユージン」<sup>公ヲ</sup>推テ將帥ト為シ兵ヲ佛西ノ二國  
ニ進メタルナリ而シテ軍旗ノ向フ所風靡セサルナク百  
戰百勝ノ後チ一千七百<sup>十年</sup>「ウトレ」チト按ニ羅馬ノ地ニ於  
テ盟約ヲ為シ其局ヲ結ヒタリ  
右世論ノ未タ是認セサル兵ノ費用其大半ハ英國ヨリ支  
辨シ為ニ英國ハ盟主ノ姿ニナリタレ此後ノ同盟連衡  
ノ時ニ在テモ又々皆英國ノ費用ニ出ツルモノ多シ猶ホ  
英民ノ中ニハ其成和ヲ以テ屑トセサルモノ居多ナリシ  
蓋シ此時ニ在テハ人民未タ軍費ノ為ニ其後代ノ子孫ヲ  
抵当トシテ債ヲ募リ紙幣ヲ以テ其利息ヲ支辨スル新政  
策ノ有害毒惡タルヲ覺知スルニ至テサリシナリ然リ而

シテ當時人民ノ虛榮ヲ好ミ空威ヲ慕フコト甚シク常人  
ノ如キハ勿論智者ト稱セラル、人ト雖モ撮空ノ妄想ヲ  
起シ英國ヲ以テ萬國ノ主宰トナシ其政府ヲ以テ歐洲各  
國ノ暴王戾主ニ關スル紛議爭論ノ邪正ヲ判決スル上等  
裁判所トナサント欲スルノ望ヲ生スルニ至レリ而シテ  
女皇「アン」統治ノ末年ニ於テハ王黨既ニ政權ヲ掌握セシ  
カ故ニ其所見ヲ以テ右「ウトレ」チトノ和約ヲ結ヒ一時其  
誇大心ヲ退縮シタリ之レニ由テ群起不平ヲ唱フルノ徒  
嘖々トシテ止マサルナリ夫ノ「ロルド」ソメル<sup>大氏</sup>ノ如キ  
其智以テ是非得失ヲ察セサルヘカラサルニ猶ホ右成和  
ニ不平ナキ能ハサリシナリ蓋シ又々國家多事時ニ際  
シテ其黨派ノ邪惡ナル風潮ニ動揺サレタルニ外ナラサ  
ルナリ

裁  
當

女皇「アン」ウ「レ」ト「レ」ト和約ノ後久シカラス即チ一千七百  
 十四年ニ歿ス女皇統治ノ間ニ増進シタル國債ノ金額ニ  
 付テハ諸説異同多キヲ以テ之レヲ精密ニ辨察アルハ甚  
 タ困難ナリト云フヘシ然リ而シテ當時王黨ノ未タ当路  
 ノ權ヲ握ラサルヤ國債募集ニ抗論ヤシカク眞政權ヲ握  
 ルニ當テ國債ヲ募集シタルハ民黨ト異ナルヲナキヲ知  
 ルナリ是レ蓋シ女皇「アン」統治ノ末年ニ王黨須臾ノ間政  
 權ヲ掌握セシキニ當テ直接ニ稅ヲ人民ニ課スルハ募債  
 スルノ易キニ如カサルナリト決定シタルヤ疑ヲ容レサ  
 ルナリ「スウ」フ「ト」及ヒ「ボ」リ「ン」ブ「ロ」ク「氏」ハ喋々國債ノ不  
 是ヲ説クト雖モ「ハ」ー「リ」ー「ロ」ルド「オ」クス「ス」ヲ「ル」ド「氏」ノ如キ  
 ハ固ヨリ柔軟ノ性質ナルヲ以テ殆ント其反對黨即チ民  
 黨ノ範圍ニ落チ此愚策ノ財政ニ感染シタルヲ見ル左ノ

計算表ハ則チ「サ」ー「ジ」ン「ク」ラ「ー」氏記スル所ノ女皇「ア  
 ン」死歿ノ時即チ一千七百十四年ニ於ケル政府國債ノ計  
 算ニシテ同年十二月三十一日迄ノ金額ヲ示スモノナリ  
 此計算ニ徴スルニ種々投機博奕ニ類スル募金方法ノ内  
 ニ於テ第一ニ富講債ナルモノ、發起スルヲ見ル  
 一千七百十四年十二月三十一日ニ至ル國債一覽

永代債	元金	封度	志	片	利息	封度	志	片
銀行債								
消却シタル租稅院手形	三、〇九四、〇七一		三		一、二八八、六〇三		一	八
東印度債其外								
臨時年酬金								
富講債其外	二六、〇一七、〇四二		一	三	一、八六一、三八四		四	一〇
未定債								

裁  
 省

海陸軍拂残其外

合計

七、〇三四、二四九

一四一〇

二〇一、三六九

一九九

此計算ニ由テ觀察スルルハ國債増殖ノ速ヤカニ驚歎  
 = 勝ヘサルナリ一千七百十四年ノ利息ハ一千七百零一  
 年ノ永代債額ニ殆ント同額ナルヲ觀ル而シテ僅々十三  
 年ノ間ニ國債ノ金額四倍ノ多キニ至ルヲ知ルナリ  
 女皇アン<sup>ク</sup>歿シハノ<sup>イ</sup>ブル<sup>ク</sup>侯繼テ位ニ即ク之レヲ<sup>ジョー</sup>ジ  
 一世ト号ス余輩ハ今其治世ノ財政ヲ談スルニ先ツ國債  
 募集及<sup>テ</sup>紙幣發行ノ政畧ヨリ喚起シタル博奕ノ仕事ト  
 詭術譎計ノ弊風惡俗ヲ開陳セサルヘカラサルナリ抑モ  
 國民中稍上等社會ニ列スル人々國益ヲ謀リ公利ヲ進ム  
 ルノ志氣ヲ失ヒ私利ヲ營スルニ汲々トシテ風俗敗頽ノ  
 實徴ヲ現ハシタルハ宗教改革(改革黨ノ自稱スル所ナリ)

際改革黨其舊教會ノ財産ヲ掠奪シタルヲ以テ第一ト  
 ス此惡弊タルヤ後又タ久年議院ニ釀成シ王政回復ノ後  
 奢侈ノ風俗天下ニ傳流セリ夫レ銀行ヲ設立シ而シテ  
 國民ノ名ヲ以テ債ヲ募ルニ至リテ人皆精神卑劣信義澆  
 季シテ家産蕩盡セサルモノナシ此惡弊以ルヤ一人コレ  
 ニ感スレハ直ニ之レヲ他ニ傳ヘテ其底止スル所ヲ知ラ  
 サルニ至レリ此ニ於テ<sup>ヘ</sup>ン<sup>リ</sup>リ<sup>ハ</sup>世<sup>暴</sup>王<sup>及</sup>ヒ<sup>其</sup>議院<sup>當</sup>  
 王ノ奴隸ノ如シ等此惡弊ヲ矯正スルニ苛法刺刑ヲ用ユ  
 レ<sup>氏</sup>勝<sup>ニ</sup>罰<sup>ス</sup>可<sup>カラ</sup>サルノ勢熾ナルヲ見ルナリ此書ヲ  
 讀ム者ハ既ニ國債募集及<sup>テ</sup>紙幣發行ト共ニ富講ナルモ  
 ノアリテ貪欲政府ノ為ニ其貨幣ヲ募集スルノ良策ト  
 ナリシヲ知ルヘシ然リト雖モ其後數年ヲ經過シテ南海  
 政策ノ名アル一方畧ノ起リシヨリ公博奕ナル富講ノ政

策ハ其氣勢ヲ落セリ蓋シ南海政策タルヤ其設計企圖ノ  
詭術狂亂ナル古今此レヨリ甚シキモノアルヲ見ス夫レ  
南海泡沫ノ名アリシハ一千七百二十年ナリ抑モ南海貿  
易會社ハ是ヨリ先キ凡ソ一千七百十二年頃ハルリ、ロ  
ルド、オ、ス、ヲ、ド、氏ノ助力ニ因テ設立セシモノニテ以  
來數年間唯其大譎計ノ怒潮ヲ現出セサリシモノ、ミ然  
リト雖モ此危機不正ノ策畧ハ抑モ柔弱政府ノ其欲心ヨ  
リ出タルモノナリ今其歴史ノ槩畧ヲ示ス、左ノ如シ  
政府増稅ノ處置益増進スルヨリ其影響ハ人民各個ノ生  
計上ニ及ビ商賣營業ノ利潤殆ント減殺シ盡サル、ニ至  
ル此ニ於テ人皆尋常活業ニテハ到底其富ヲ為ス能ハサ  
ルヲ信シ自カラ其平生ノ營業ヲ拋棄シ譎計詭術ヲ極メ  
贏輸ヲ彈指ノ間ニ試ムルニ至レリ夫レ此ノ如キ一般有

害ナリ氣風ノ偏ヲ作ク者ハ抑モ新政府自カチ先倡シ  
テ諸種博奕法ヲ作リ之レヲ公衆ニ教ヘテ養成シタリシ  
ナリ而シテ其弊害ノ後ニ及フヤ平生非常ニ謹慎堅固ナ  
ル人々モ其狂亂ノ風氣ニ感染シ奸猾仲間ノ術數ニ陥テ  
サルモノ殆ント鮮ナシ此時ニ當テ其投機者ノ權謀術數  
タルヤ至ラサル所ナク既往未タ曾テ之レヲ聞カス將來  
將ダ見ルヘカラサルノ一大戲場ヲ現出シタルナリ是レ  
蓋シ政府ノ策畧并ニ其自然ノ成果ナル投機事業ヲ實驗  
シ國民漸々大ニ此博奕ノ工夫ニ通曉シ終ニ南海會社仲  
間ナルモノ、乘シテ以テ其一博ヲ試ミタルトハナレ  
リ夫レ此ノ貿易會社タルヤ本來ハ西班牙領亞米利加ト  
貿易ヲ為シ南海ニ鯨漁スルノ目的ニテ設立シタルマテ  
ニシテ當時最モ寥々トシテ聞クナキモノナリ蓋シ其

創始ハ女皇<sup>アリ</sup>統治ノ末年ニアリテ一千七百十九年ニ  
至ル迄ハ唯西班牙王ノ免許状ヲ得テ西領殖民地へ一ニ  
艘ノ船ヲ往來スルニ過キサリシガ一千七百十九年ニ至  
リ該會社ノ掌理者一計ヲ畫シ政府ニ建議シテ政府ノ財  
政切迫ノ時ニ於テ取極メタル巨額ノ永代年<sup>レ</sup>酬金<sup>ニ</sup>按<sup>テ</sup>國  
債ノ一部<sup>ヲ</sup>及<sup>テ</sup>自餘此類ノ債ヲ償還スヘケレハ政府其報  
酬トシテ貿易ニ關スル特權ノ免狀ヲ弊社ニ下付セラレ  
ヨト請願セリ該會社ヨリ此ノ如キ政府ヲ誘惑スヘキ建  
議ヲ出セシ片ニ當テ銀行已ニ既ニ政府ノ特許ニ由テ獨  
專ノ業ヲ營スルノ利ヲ有セシニ今又夕新ニ政府ノ保護  
ヲ望ムモノアルヲ聞テ愕セヌ百方コレヲ遮遏セシカレ  
終言其效ヲ右ノ建議ハ政府大臣ノ許可ヲ得タリ而シ  
テ議院一條例ヲ議決シ特權免狀ヲ下附セリ此條例ヲ議

決スルニ當テ王黨甚シク此レヲ抗論シ就中方正明智毅  
然タル大丈夫ヲ以テ當世ニ稱セラルルアリテバルド、ハ  
チソン氏ノ如キハ其利害ヲ盡シテ其不可ヲ痛論セテレ  
シト雖<sup>モ</sup>到底南海會社ニ特權ヲ許スコトハナレリ即チ  
其條例ノ弊畧ハ左ノ如シ該會社ハ條例中ニ記スル公債  
ヲ辨償シテ以テ其資本株金ヲ增額スルヲ得ヘシ又夕金  
錢ヲ徵集シ以テ條例中ニ記スル各種公債ヲ拂ヒ減シ  
若シクハ償還スルヲ得ヘシ又夕未夕消却セサル租稅院  
手形ヲ幾分ヲ呼ビ集メ其代リニ新手形ヲ發行シ租稅院  
ニ於テカ又ハ租稅院ノ近傍ニ於テ隨時求ニ應シ該手形  
ヲ交換スルヲ得ヘシトナリ是レ則チ一千七百十九年ノ  
耶蘇<sup>ス</sup>生<sup>ス</sup>日ナリ其特權免狀ニ由テ若干ノ緯度中ニ貿易ス  
ルノ特權ヲ有シ政府ヨリ數種ノ保護<sup>ヲ</sup>但シ此方法ハ斯ニ

大 裁 省

枚舉スルヲ要セサルナリ) 得タリ是故ニ該條例ノ上下  
兩院ヲ經過スルヤ否ヤ該會社ノ株券非常ニ騰貴シ每百  
ニ付三倍ト一割九分ノ高價ニ登レリ此ニ於テ機ニ投シ  
博奕ノ贏輸ヲ試ムルノ氣勢忽チ暴發シ其狂乱ナルヲ傳  
染病ノ如ク國民舉テ此レニ感染シ其常業ヲ擲テ以テ奔  
走スルニ至ル然ルニ獨リハケソシ氏及ヒ其他二三ノ職  
者ハ其氣勢ニ動搖セサルノミナラズ頻リニ公衆ニ向テ  
該政策ノ結局失敗スヘキヲ断言シ其被騙者ノ損害ヲ痛  
論セシト雖モ終ニ一人ノ之レヲ耳朶ニ認ムルモノ無カ  
リシハ歎スヘキニ非ズ乎然リ而シテ該會社ノ掌理仲間  
ヨリ株券ノ初度ノ賣出ハ每百ニ付キ三倍ニテ二百二十  
五万封度ノ株券ヲ賣却シタリ而シテ其株券ノ市場ノ相  
場ハ直ニ騰昂シテ三倍四割ニ達セリ是レ約束上取極ニ

於ケル初度拂高(按ニ株券買主ヨリ會社ニ拂フナリ)ノ丁  
度ニ倍ナリ而シテ該會社猶ホ權謀術數ヲ逞フシ巧妙ニ  
其泡沫ヲ修飾ヤシカ為ニ一千七百二十年夏至(大約六月  
二十一日)ニ拂フヘキ唯絶カノ半年期公配金ナル南海株  
ニ一割ノ公配金(利息拂)ヲ為スヘシト癸言シタリ又々南  
海株券ヲ欲スルモノニハ抵当アレハ五拾万封度ヲ貸與  
スベシト披露ヤシガ父シカラスシテ又々此貸渡ス株券  
ノ金額ヲ一百万封度ト披露ヤリ此ヲ以テ大ニ世間ノ信  
ヲ増加シタリ故ニ永代年酬金証券ヲ以テ其株金ニ入ル  
ハヲ得ヘシト公布シタルノミニテ未タ其取扱ノ方法ヲ  
モ定メサルニ早クモ永代年酬金証券ノ持主ハ約束取扱  
向等ヲ知ルヲナクシテ其永代年酬金証券ヲ南海會社ニ  
付托シタレ其取扱方ヲ知ラス而シテ殆ント六月ニ至

リ初度半年期分配金(利息拂)ノ期日ニ迫ラントスルハ氣  
勢益々盛ニシテ會社ノ株券ハ每百ニ付八倍ト九割ノ高  
價ニ騰レリ然リト雖モ此ノ如ク過度ノ騰貴アリシヨリ  
株券ヲ賣ル人甚々多数トナリ為ニ其價直突然下落シ稍  
危険ノ徵ヲ現セリ然ルニ該會社仲間ハ非常ノ英断ヲ以  
テ每百ニ付キ十倍ノ新株ヲ造リ各一百封度ツ、十回賦  
還法ニ由テ賣渡スヘシト披露シタルニ奇ナル哉此一奸  
策ノ為メ忽チ氣勢ヲ挽回シアンデルソン氏ノ言ノ如ク  
數日ノ内ニ一回百封度ノ分ニテ四百封度ノ價直ニ騰貴  
セリ  
右一奸策ヨリ回復シタル氣勢ハ即チ泡沫沸騰ノ頂點ナ  
リ乃チ其潮勢漸ク方向ヲ変シ當時ノ他ノ諸會社ニ向テ  
流動セリ即チ當時銀行株券ノ價直ハ騰貴シテ每百ニ付

キ二倍ト六割ノ割増ヲ生シ東印度會社ノ株券ハ四倍ト  
四割五分ニ騰レリ但シ小泡沫ノ價直ハ大泡沫ノ價直ニ  
從テ騰貴セシナリ故ニ此時ニ於テ其株式取引所ニ於ケ  
ル各種株券ハ稱シテ五億封度ナリト云フ而シテ當時英  
國ノ借地料及チ家稅等ノ歳入ハ毎年仅々一千四百萬封  
度ニ過キサレハ十六年間ノ歳入ヲ合計スルモ唯々二億  
二千四百萬封度ニシテ右泡沫株券披露金額ノ半ニ當ル  
ナリ夏至ノ後ニ至リテ人氣狂乱ノ潮勢漸ク衰ヘテ疑惑  
心ヲ起セリ而シテ小泡沫先ツ破裂セリ然ルニ南海會社  
ノ至愚ナルヤ小泡沫ノ始計者其小圖策ヲ失敗シタルヨ  
リ已レ南海會社ノ方畧ノ信用ヲ毀傷シタルト為シ大ニ  
憤リ其小泡沫始計者ノ諸小會社營業停止ノ命ヲ下スヘ  
キヲ告訴シタリ此ニ於テ舊來ノ親友タリシモノ忽チ

大  
數  
當



変シテ新仇讎トナルモノアリ然リ而シテ終ニ一十七百二十年八月十三日ヲ以テ終ニ裁判所ヨリ右營業停止ノ命ヲ下タセシヲ以テ小會社ノ破産踵ヲ接スルカ如キニ至レリ而シテ大泡沫ノ破裂モ亦タ端ヲ此時ニ為セリ是レ蓋シハケソシ氏先見ノ果シテ違ハサルヲ見ルヘキナリ然ルニ南海組ハ猶ホ死カヲ出シ其將ニ全破碎ニ至ラシトスル泡沫ヲ維持センカ為メカ蘇生日ニ於テ拂渡スヘキ半年期分配金(利息拂)ヲ三割ト公布シ其後ハ十二年間五割ノ分配金(利息拂)ヲ為スヘシト披露シ以テ結局ノ一計ヲ試タリト雖モ時機既ニ去リ二月ノ三十日ニアラサレハ復タ其議ヲ用アルノ日ナキ情勢ニ至リ(按ニ到底其議ヲ用アルノ日ナキヲ云ナルヘシ)掌理者百方カヲ盡シ維持ノ方畧ヲ施セシカモ盡ク無益ニ属シ終ニ株券下

落シテ一倍ト七割五分ニナリシ并忽々恐慌ヲ生シ數億ノ株券一齊ニ下落シ盡ク地ニ委シ為メニ數千万人ノ破産ヲ來シ其餘響銀行及東印度會社ト雖モ殆ント其連累ノ難ニ罹カル情況ナリ而シテ其災害ノ結局ハ議院終ニ此レニ干涉シ主謀者ヲ放逐シ或ハ重大ノ罰金ヲ科シ租稅卿エイシラセイ氏モ其主謀者ノ一人ナリ而シテ若干ノ該株券ヲ以テ再々國債トナセリ是則ケ今日南海年酬金株券ト稱スルモノナリ此大災害タルヤ一時民心ニ善良ノ影響ヲ生ヤリ何トナレハ則ケ此レカ為メ一時人民ノ博奕心ヲ抑制シタルカ故ナリ一十七百十四年一七一〇年即位シ一十七百二十七年ニ歿ス此時限中財政事實ノ記エヘキモノ甚タ稀ナリ是ヨリ先キ女皇ノ統治ニ於テ所謂ル王位相續ノ乱アリテ歐

州各國非常ニ國帑ヲ耗費シ國力疲弊セシ故ニ復タ遂ニ  
戰端ヲ開クベキ勢力ナキノ情况ナリシ英國ニ於テモ瑞  
典ト暫時ノ葛藤及ビ西班牙ト三年ノ紛議ヲ除ケルハ  
ノイブル家初代ノ御宇ハ之レヲ平和無事ノ世ト稱スヘ  
シ此王ノ統治ニ於テ國債ハ減額スルヲナシト雖モ又ク  
増額スルヲナシ而シテ政府ノ政ヲ施スヤ驟シテ云ハハ  
正廉穩當ナリシト稱スヘシ蓋シ「ウルボ」ル氏此時既ニ  
職ニ任セリト雖モ尚ホ未タ大權ヲ掌握セサリシヲ以テ  
同氏ノ賄賂ヲ以テ權ヲ得タルハ「ジョージ」二世ノ御宇ニ當  
レリ「ジョージ」一世死歿ノ片ニ於ケル國債ノ金額ハ其即位  
ノ片ニ於ケル金額ヨリ聊カ減少スルニ似タレド此時既  
ニ重稅ヲ人民ニ課集スルヨリ從テ諸營業ノ衰頹ヲ來シ  
其影響ハ濟貧稅ヲ增加セサルヲ得サルニ至レリ而シテ

濟貧稅タルマ此時未タ其甚シキニ至ラスト雖モ數年ノ  
後々年々非常ニ増加スルニ至レリ而シテ右濟貧稅ノ金  
額ハ犯罪ノ數ト均シク國內當時ノ貧富盛衰ヲ確知スル  
ノ定規トナルヘキカ故ニ余輩ハ此後屢々此二種ノ定規  
ニ由テ紙幣ヨリ生スル變動變化ノ間ニ其貧富盛衰ノ真  
情ヲ觀察スヘシ然リト雖モ此レヲ觀察スルニ當リ先ツ  
國內通貨ノ下落スル片ハ其下落原因ノ何タルヲ問ハス  
必ラス貧民ノ増スルナキモ濟貧稅ハ常ニ増加スヘキヲ  
ヲ注意セサルヘカラス何トナレハ則テ通貨下落スレハ  
必ラス救恤トシテ貧民ニ賦與スル物品騰貴スルカ故ナ  
リ然リト雖モ濟貧稅ノ増加スルト巨大ニシテ通貨下落  
ノ割合ニ應セサル片ハ則テ其人民ノ一層貧困シタルヤ  
疑ヲ容レサルナリ

蔵省

一千七百二十七年「ジョージ二世即位シ此ヨリ一千七百三十九年ニ至ル迄十二年間ハ全ク大平無事ニシテ絶テ外患内乱ノ禍ナシ此十二年間「サロベルト、ウエルボルト」氏宰相ニ任シ勢力ヲ下院ニ得タルハ賄賂不正ニ出デ其跡議スルキモノアリト雖モ亦タ能ク自國ト外國トノ交誼和親ヲ維持シタリ而シテ又タ其自己ノ權威ト其黨派「民黨」ノ勢力衰ヘタルハニ於テハ國費ヲ浪費スルヲ好マサルカ如ク見ヘタリ然レモ其施政ニ於テ大ニ官吏ノ高尚ナル氣風ノ地ヲ拂ツテ消滅シ從テ國民一般ノ自由ヲ減殺スルアルヲ見ル是レ亦タ其由テ来ル所ヲ探ルルハ國債ヲ起ス政策ニ外ナラサルナリ此弊風惡俗ノ女皇「アリス」及「ジョージ」一世統治ノ間ニ於テ急ニ増進シタルヤ「ロド、ボリン、グロ」氏史論ニ據テ確証スルヲ得ヘシ

即チ其論ニ云ク「寔革以來我國歷代ノ帝王ハ皆其王タルノ威權ヲ失ヒ恰モ議院ノ歳俸ヲ受クル年期奉公人ノ姿ニ似タリ然リ而シテ議院ノ職ハ之レヲ概言スレハ本来ハ人皆尊敬セシ職事ナリシニ變革以來ハ其争一個ノ商業ノ如ク然リ而シテ議院ノ商業及テ國債募集紙幣發行ハ漸次ニ増進シ國中一般ノ風俗トナリ苟モ社會ノ中等以上ニ列スル人々ハ皆商業貿易ニ由テ身ヲ立ント欲スル外他ヲ省ミサルニ至レリ夫レ國會ノ會次其數ヲ増スルハ必ズス國家ノ利ヲ生スルコト多ク從テ國會ノ聲價ヲ増スヘキ筈ナルニ其商業貿易ヲ事マシヨリ其色價ヲ落シ其高尚ノ性質ヲ失シタリ以來人々英國憲法ノ何タルヲ知ルモノ殆ント稀ナリ即チ教會ノ制規既ニ久シク廢弛スル所トナル一ナリ政府ノ制規既ニ人ノ遵奉マサル

歳省

所トナルニナリ而シテ政府教紀共ニ執推者ノ意ニ一任  
スルノミ故ニ教會ノ如キ其初メハ制度嚴肅風俗清淨ニ  
シテ人ノ尊奉スル所ナリシト雖モ今ハ却テ國家ノ為ニ  
無用ノ長物トナレリ政府ハ古昔ノ如ク國王貴族平民ノ  
三種ヨリ組織スト虽モ王ハ其君主タルノ威權ヲ有セス  
上院ハ其貴族ノ政權ヲ持ツス下院ハ其民庶ノ政權ヲ維  
持セス實ニ其狀恰モ奇異ノ怪物ニ異ナラス然リ而シテ  
國憲既ニ此ノ如ク壞敗シ人情風俗此ノ如ク澆季ヲ極ム  
ルヨリ從テ工藝技術文學ハ勿論其他百般ノ好尚日々ニ  
衰頹シ奢侈益々甚シク賄賂ノ法立テ公行スルニ至レリ  
夫レ政府敗壞スルハ必ラス國內萬物盡ク衰頹ヲ現ハ  
スモノナリ即チ一人一個ノ德義精神ト天下公衆ノ德義  
精神トヲ併セ此他技藝學術ノ末伎ニ至ルマテ悉ク衰頹

スヘキナリト此ノ一篇ノ高論ハ則チ王黨タルボリン  
ロク氏ノ記セシ所ナリ而シテ此外又タ此ノ如キ卓識  
ノ史論アリテ王黨ノ所見ニ出ツルモノ居多ナルヲ見ル  
ルハ其昔日ノ行名ヲ雪クニ足ルヘキナリ「サ、ナザニア  
ル、ウテキザル」氏ノ論スル所ノモノ、如キハ則チ猶ホ一  
層直接ニ當時ノ弊風ヲ痛論スル公平無私ノ明論ナリ乃  
チ其著ス所ノ世情論ニ云ク予嘗テ前ノ宰相タリシ人ニ  
聞ケリ夫レ議院開院ノ時ニ當テ宰相官ノモノ常ニ下院  
ノ廳門ニ待立シ議負ノ場ニ上ルヲ窺ヒ恭シク禮ヲ為シ  
竊ニ若干ノ金額ヲ贈レリト此論タルマ數年前エシンボ  
ルク、リヒウ新聞記者喋々之レヲ辨駁シテ決シテ此事ナ  
シト云フト雖モ既ニ當時國憲ノ弛廢シ人情風俗ノ壞亂  
シタルヲ見ルハ又タ該傳説ヲ以テ一場ノ虛談トナス

能ハサルナリ故ニ余ハ世論ノ如何ニ拘ハラズ獨リ自カ  
ラ「サー、ナザニアル」氏及ニ其前宰相某ノ言ハ虚談ニアラ  
サルヲ信スルナリ「ロルド、ボリンブロー」氏ノ史論ハ政  
府課税ノ大不正ヲ生セシ時限ニ係ルモノニシテ爾來其  
大不正名爲ニ國家ノ大困難ヲ生シタル時限ニ係ルモノ  
ニ非ス夫レ窮迫ハ新工夫ノ母ナリ蓋シ余輩今財政ノ歴  
史ヲ以テ其真ニ然ルヘキヲ明證スヘシ  
宰相「ウォルポール」氏ノ和親主義ニ拘ハラズ終ニ西班牙ト  
開戦スルニ至リシハ則チ右ニ開陳シタルカ如キ弊風惡  
俗官民ノ間ニ行ハレシ時ニ當レリ世此戦争ヲ名ニ常ニ  
「カッツトスキ」戦争ト稱ス此戦争ノ原由ハ「ウォルポール」氏  
ノ仇家輩同氏ノ賄賂ヲ以テ買得タル勢力ヲ剝奪スル口  
實ヲ設ケシカ爲メ煽動シタルモノナリ同氏ハ常ニ和親

ヲ以テ主義トナシ又々開戦ヲ拒ムヨリ反對黨ハ其機ニ  
投シ頻リニ同氏ハ巴カ威權ヲ維持セント欲シ國辱ヲ顧  
ミサル人ナリト宣言シ以テ一撃ヲ試ミタルニ朝野之レ  
ニ應スルモノ多キヲ以テ開戦ハ既ニ國民ノ是認スル所  
トナルニ似タリ然リ而シテ西班牙人嘗テ英國水夫ノ「マ  
」トトカサウ「ド」ノ港按ニ英領亞米利加ノ浦口ニ來リ毛  
皮貿易ヲ爲サントシタルモノヲ捕縛シ殘刺ノ拷問ヲ加  
ヘ毀傷シタルヲアリ開戦主義黨ハ是レ亦々宰相ノ臆病  
ナルヨリ西班牙人益々我ヲ蔑如スルナリト信セリ繼テ  
其水夫ノ西耳ヲ截断サレタルモノ數人下院ノ訟庭ニ來  
テ其状ヲ訴ヘタリ是ニ於テ國民一般ニ激怒シ終ニ「ウォル  
ポール」氏和親ノ主義ヲ破リ西班牙ニ向テ戦ヲ宣告スル  
ニ至レリ此開戦ノ時ニ當リ下院巨額ノ國財ヲ浪費スト

雖モ「ウルポール」氏常ニ施政上大ニ冗費ヲ省キ政府收入ノ途ヲ開進シ以テ著シク國債ヲ減額セリ一千七百三十九年「カトスキ」戦争發乱ノ時ニ於テ國債ノ金額ハ四千六百九十五万四千六百二十三封度三志四片半ナルヲ見ル「サ」シ「シ」ク「テ」ル「氏」ノ歳入史ニ據ル「是」則チ「ジ」一世死歿ノ片ニ比較スレハ五百万封度ヲ減セリ是レ同氏ノ功業ナリ何ソ頌揚セサルヘケシヤ「シ」ク「テ」ル「氏」其著ス所ノ歳入史ニ於テ此美例ヲ言ハサルハ奇怪ト言ハサルヲ得ス蓋シ該減額タルヤ國債全額ノ一割ニ當ル而シテ又タ「ウルポール」氏當時ノ政府ナルハ「バ」ノ「ブ」ル朝ノ安全ヲ維持センカ為メニ己ムヲ得ス費用シタル金額モ亦タ少小ニ非サルヲ知ルハ則チ其曾テ世人ヨリ受ケタル頌詞ハ其功業ヲ讚美スルニ足ラサルヲ覺フ

牙史

ナリ扱其戦争ハ元來西班牙ヲ以テ初メタリシガ後終ニ日耳曼帝國相續ノ紛議ニ付キ又タ佛國ト開戦スルニ至レリ而シテ其交战未タ終ラサルニ又タ一千七百四十五年自國叛賊ノ乱起テ当朝殆ント顛覆ノ形勢ニ至レリ而シテ終ニ漸ク鎮定ニ歸ヤリ蓋シ此時ニ於テ英國人民ハ皆ナ王家ノ利害得失ニ痛痒ヲ覺エサルヲ見ル是レ「ホ」ル「ス」字「ル」ポ「ール」氏ノ痛歎セシ所ナリ故ニ之レヲ要スルニ當時佛國ノ「ブレ」テン「ダ」リ「チャ」イレ「ス」エド「ワ」ルド「フ」ヲ「佐」スルニ當テ苟モ佛國其外患ナクシテ軍資兵食ノ以テ欠乏セサルアラハ必ラス「ス」チ「ア」ルト家ハ再ニ英國ノ王位ニ復シ百事全ク其面目ヲ改タムヘシト信スルナリ然リト雖モ此時既ニ英國ハ其兵ノ日耳曼ニ出テシモノヲ呼戻シタリ初メ「チャ」イレ「ス」エド「ワ」ルド「フ」ハ事ヲ舉ケシヨリ歸

降ノ兵ナシト雖モ復タ沈スルモノナカリシコト此ニ至リ  
テ終ニカロデシノ一戦ニ僱兵ノ為メニ一敗地ニ塗ルニ  
至レリ此ヲ以テ一千六百八十八年大变革ノ後全フス  
ルヲ得タリ然リト雖モ右此叛賊ノ乱ノ為メ一時國債政  
策ニ於テ激動ヲ為シ殆ント財政上ニ一変動ヲ生セント  
スルノ情勢ナリシ蓋シ此時ニ當テ紙幣ノ發行許多ナル  
ヨリ世上金ノ利息既ニ下落シ叛徒ノ英國ニ侵入セシ  
ニハ政府ノ三分利付ノ國債証書ハ八割九分ノ高利ト同  
様ナルニ似タリ此世上金利下落ノ時ニ當テ政府ヲ大丈  
夫ト信シ世上金利ノ下落ニ乘シ獨リ國債証書ヲ以テ生  
理ノ財産トセント企圖セシモノアリシカ「キール」ス、エド  
ワルドノ軍敗レシ後ニ今一步「キール」ス勢力ヲ得テ英人  
ノ之レニ應スルモノアルハ「デルボー」ヨリ直ニ倫敦ヲ

衝テ政府ヲ顛覆スルハ易々中ノ易ニシテ政府ハ累卵ノ  
危ニ位セシヲ聞知シ初メテ毛髮ヲ聳ヘテ懼レシト云  
フ蓋シ此輩ハ二三年ノ後ニ至ルマテ猶ホ往時ヲ回想シ  
テ悚然タリシト云フ一千七百四十八年「エイキストラ」  
「ル」<sup>ル</sup>按ニ羅馬ノ市府ノ和約成ツテ初テ人心奮ニ復シ安堵  
スルニ至レリ然リト虽モ此戦争九年ノ間ニ費シタル金  
額ハ其前々ノ戦費ニ超過スルヲ甚シ蓋シ其超過スル所  
以ノ理由ハ既ニ前文ニ開陳シタル如ク前戦争軍費支辨  
ノ為メ募集シタル國債ノ利息ヲ支辨スルニ必ラス收税  
ヲ以テス既ニ税ヲ人民ニ課集スルハ必ラス當時軍用  
ニ供スル諸物品ノ價直ヲ騰貴スヘキカ故ニ後戦争ノ軍  
費ハ必ラス前債ノ夕寡ニ比例シテ前軍費ニ超過スルノ  
理ナリ此財理タルヤ一十七百三十九年ノ戦争ヲ以テ稍

之レヲ證明スルヲ得ヘ、即チ該戦争ノ為メ國債ノ金額ハ其戦争前ノ金額ニ比較スレ、殆ント二倍ノ増加ヲ致シ以テ「サリ、ホルポール」氏ノ減額シタルル終ニ無効トナレリ

即チ該戦争中ニ増加シタル計算ハ左ノ如シ

	元 金		利 息	
	封 度 志 片		封 度 志 片	
一千七百四十八年十二月三十一日ノ債額	七八、二九三、三三三	一七五	三、〇六一、〇〇四	十一、一七五
一千七百三十九年十二月三十一日ノ債額	四六、九五四、六二三	三	一九六四、〇二五	十、一二五
差引増額	三二、三三八、六八九	一八六、七五	一、〇九六、九七九	一、五五〇

「エイキストラチャメル」ニ於テ和約ヲ結ビシヨリ以來七年間和親ヲ保テリ其平和ノ時限ニ於テ宰相「ペルハム」氏金利下落ノ機ニ投シ既定債ノ金額ヲ減スルヲ三百廿十二万

一千四百七十二封度一志八片四分の一ナリ而シテ又々同時ニ此減額シタル跡ノ残債額ノ利息ヲモ減セリ而シテ此方法ニ於テハ通例紙幣發行ニ由テ利益ヲ得シ人ニハ往々不利ナルヲアリ而シテ初メ國債ヲ募ル時ニ發行セシ証券ハ其後其利息ヲ減スルヲアリ是レ則チ國債及紙幣ノ害悪ノ政策ト虽モ又々幾分カ利益ヲ含有スルノ証據ナリ

一千七百五十五年佛國トノ戦争破裂シテ「ジョージ」二世歿後尚ホ平ラガサリシ然リ而シテ英國ノ此戦ヲ「クック」ヤ大主意ハ其所領米殖民地ヲ防禦スルニ在リ抑モ当時米殖民地ノ英本國ニ於ケルヤ例ハ「熟果」ノ枝ニ係ルカ如ク分離既ニ徴シ數千ノ後チ思シテ他有ト為スニ至リナリ然レニ今英國ノ兵馬ヲ動カシ之レカ為ニ防禦ノ勞



ヲ厭ハサルハ復タ一笑スヘキナリ而シテ米國ハ當時ニ  
在テ英國ノ威權ヲ宇内ニ光祚スヘキ明珠トナリタル  
君主大臣庸闇執迷ニシテ該地ノ後來大利アルヲ知ルノ  
明ナカリシハ復タ惜ムヘキナラスヤ夫レ此戦争ノ初起  
ヲ奪ヨルニ佛人固ヨリ既ニ自國ノ武威ヲ誇リシニ英  
國ヲ以テ其勁敵ト信シ之レヲ惡ムノ甚シキ蓋シ一日ニ  
非サルナリ是ヨリ先キ英將「マルボロー」ノ為メ屢ク敗ヲ  
取り憤懣措ク能ハス終ニ之レヲ報ヤント欲シ竊ニ其殖  
民地下「カナダ」ヨリ説客ヲ出シ「シント、ローレンス」大河東  
南ノ濱及ヒ今日「メイ」州ト稱スル地方ニ住スル「印度人」  
ヲ慫慂シ同盟連衡ヲ組成シ而シテ後チ不意ニ英領殖民  
地ニ侵入シ到ル處殺戮掠奪ヲ恣ニシ残忍兇暴ヲ極メリ  
我カ殖民ハ事不意ニ出ルヲ以テ此レニ抗戦スルニ由ナ

ク獨リ狼狽ヲ極ムルノミナリ此急報ノ英國ニ達セシト  
ハ佛兵及ニ其同盟印度人ハ既ニ「ピラデル」ニヤ府當時既  
ニ繁盛ノ都府ナリヨリ一百英里以内ニ進入セリ此ニ於  
テ英國ハ佛國ニ向テ戦ヲ開カサルヘカテサルノ勢ニ逼  
迫シ終ニ開戦ヲ宣告シ一千七百六十二年ニ至テ局ヲ終  
ハル而シテ此戦争中ノ軍費巨大ニシテ國債ヲ増シテ二  
倍トナスニ至レリ此戦争ヨリ生スル有害ノ成果ハ多ク  
「ジョージ三世」統治ノ時ニ屬スルカ故ニ之レヲ後章ニ於テ  
「ジョージ三世」狂暴殘虐ノ政ヲ施スヨリ發生シタ「災害」ヲ  
陳述スルハニ讓リ此章ハ先ツ「ジョージ二世」ノ死去ヲ以テ  
終ラサルヲ得ス乃チ其死去セラレタルハ一千七百六十  
年ナリ而シテ此治世中理財上著シキ事莫ニアリ其一  
則チ「サト、コベル」ト「ウオル」ボ「ル」氏初テ「債募集」ノ政策ヲ

起ス是然レ五百万封度ノ債ヲ償還スルノ後廢棄  
セラレタリ其二ハ則チ聰明博識ナル「カウ  
ンシル」  
カ國債政策ヲ駁撃スルモノ是ナリ一千七百五十年ノ  
戰爭前同氏著ス所ノ公信論ニ於テ明了精密ニ後代子孫  
ヲ氏當トシ債ヲ募集スル政策ノ天理ニ戾リ人ニ害ク  
所以ノ理由ヲ説キ又タ懇々將來必ラス其政策ヨリ生ス  
ヘキ弊害ヲ切論セリ而シテ同氏ノ友人ニシテ富國論ヲ  
著シタル「アダム  
スミス」氏其論ヲ讚成セリ蓋シ「ヒューム  
氏」  
先見ノ今果シテ徵スルモノ少ナカラサルハ同氏ノ論文  
ヲ讀ム人々ハ其論ノ尽ク約束ヲ將來ニ遂クヘキヲ疑ハ  
サルヘシト確信スルナリ  
余輩ハ今次章ニ進行シテ「ジョージ  
三世」ノ狂暴邪惡ニシテ  
數年ヲ經ル統治ノ財政ヲ論陳スヘシ乃チ該時限ノ財理

史ヲ考究スルキハ則チ紙幣及テ國債ノ國家ニ毒スルノ  
甚キ人民ノ志氣ヲ萎靡シ德義ヲ敗壞シ文學技術工藝ハ  
勿論人間社會ニ有用貴重スヘキ百般ノ事物ヲ衰頹シ地  
ヲ掃ハシムルヲ跡スヘシ又タ該政策ノ影響ハ社會ノ  
全体ヲ变化シ英人ノ面目四支百骸ヨリ其英人ノ英人ト  
ル魂膽精神ヲ变化消耗セシヲ見ルヘシ又タ力役者ハ益、  
貧困ニ迫リ罪科ヲ犯シ國ノ富實ハ益、一所ニ推積シ舉  
テ以テ「ジ  
ウス」宗徒高利貸者金銀貸借請負人株券類賣買  
人金銀貸借世話人及テ其他投機者奸騙者ノ有、ナリシ  
ヲ見ルヘシ又タ「イ  
ョウ  
メント」稱スル門地ノ人民モ衰頹  
ヲ極メ殆ント英國ニ於テ其名稱ヲ知ルモノナキニ至ル  
ヲ見ルヘシ又タ萬氏ノ富實甚ク偏重ノ憂ナク齊シクニ  
福ヲ享、我カ樂國ナリシモ終ニ貧、訛訛及賊出沒ノ

郷辛シテ常備兵ヲ備ヘ之レヲ嚴戒  
財主ノ暴威放恣ノ擅場ト為リシヲ見ル  
弊シテ之レヲ言ヘハ國債紙幣政策ノ人情風俗ニ  
内ノ百事ヲ変乱致壞スルヤ古來ノ大惡虐政ト雖モ決シ  
テ此ノ如ク甚シカラサルヲ知ル蓋シ自由ヲ以テ國  
ニ法律ヲ以テ統御スルノ名アツテ其實際ヲ徵スレハ國  
ノ安全幸福ハ既ニ傾キ公德公義ノ如キ其彷彿ヲ昔日夢  
中ニ回想スルノミ悲哉

第五章終

